

# クロスロード

2022

別冊



## JICA海外協力隊に参加する人はどんな人？

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に行ってきました！

Q&Aで不安や疑問を払拭！ JICA海外協力隊ガイド

希少職種図鑑

選考の流れ

選考試験ではここを見る！

応募までのTo-Doリスト

健康審査に関する注意事項

先輩隊員の任地メモ



# JICA海外協力隊派遣実績国 (2021年11月末現在)

98カ国で累計54000人以上の協力隊員が活動しています。



## クロスロード

### Contents

02-03	派遣実績国一覧/Contents	24	JICA海外協力隊に求められる力とは？ 選考試験ではここを見る！
04-09	JICA海外協力隊に参加する人は どんな人？ ▶Case1,2,3	25	応募までにしておきたいことをチェック！ To-Doリスト
10-13	駒ヶ根青年海外協力隊 訓練所に行ってきました！	26	健康審査に関する注意事項
14-17	Q&Aで不安や疑問を払拭！ JICA海外協力隊ガイド	27-29	どんな生活が待っている？ 任地メモ
18-21	こんな要請もあります！ 希少職種図鑑	30-35	JICA海外協力隊に参加する人は どんな人？ ▶Case4,5,6
22-23	選考の流れ&選考担当者から皆さんへ	36	JICA海外協力隊に関するお問い合わせ先

#### 【凡例】

JICA海外協力隊の隊員（経験者を含む）については、次のように表記しています。

国際協子さん(ケニア/環境教育/2019年度1次隊)			
氏名	派遣国	職種	隊次

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

『クロスロード』(通常号)は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元をする際の情報を提供する雑誌で、年に10回発行しています。



編集・発行：  
独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

#### 表紙によせて

NGO小児口腔予防衛生協会が、アルタグラシア県イグエイ市で運営する歯科診療所「ソリサ」に配属され、初めて活動した時の写真です。市内の小学校で口腔衛生指導を行い、歯ブラシを配布しました。任地に日本人は私一人だったこともあり、最初は警戒する児童もいましたが、つたないながらもスペイン語で積極的にコミュニケーションを取ったところ、任期後半には笑顔で話しかけてくれるようになりました。  
後藤真美さん(ドミニカ共和国/コミュニティ開発/2017年度2次隊・宮城県出身)





CASE  
1

## 協力隊への参加が プロ野球界で働く足がかりに 中南米の選手をプロの世界へ送り出したい

新卒で参加した金子真輝さんの場合 ▶ JICA海外協力隊野球隊員としてコスタリカへ  
▶ 帰国後：福岡ソフトバンクホークスへ入団、2022年から留学



### 隊員時代

- ①活動終了時、教え子たちと。着用しているのはプレゼントされた「GRACIAS HIKARU」のTシャツ
- ②コスタリカの子どもたちにルールの説明をする金子さん

2019年11月、日本一のプロ野球チームを決める日本選手権シリーズで、福岡ソフトバンクホークスが優勝した。MVPIに選ばれたキューバ出身のジュリスベル・グラシアル選手は「皆さんの応援のおかげ。嬉しいです」とスペイン語で話した。そのとき、隣で通訳を務めたのが、金子真輝さんだ。

金子さんは6歳から野球を始め、高校まで選手として活躍した。大学ではスポーツ心理学者として著名な南海大学体育学部の高妻容一教授のもと、スポーツメンタルトレーニングを学んだ。ジャイアンツアカデミーの指導者講習会に参加するなど、児童や生徒たちを育てる野球の指導員を目指した時期もあるが、プロ野球に関わりたいたいと考えるようになる。また、海外、特に中

南米で野球の普及に携わる日本人コーチの話聞き、興味を持った。

「日本のプロ野球で活躍する外国人選手の多くは英語やスペイン語を話しますが、日本のプロ野球界にはスペイン語を話せる人は多くありません。野球の経験を生かしつつ、スペイン語通訳としてプロ野球に関わっていきたくと思いました」

通訳になることを目的にJICA海外協力隊を選ぶ、という人は多くはない。しかし金子さんは「現地の生活にどっぷり漬かれる協力隊員は、語学留学をするより野球を通じて現地の人たちのことを知ることができ、生のスペイン語にも触れられる」と考えた。そこで大学4年の時に秋募集に応募、SNSなどで中南米で野球指導をした先輩隊員らを探して情報を集めた。3月に

合格が決まると、JICA駒ヶ根訓練所での派遣前訓練を経て、9月には野球隊員としてコスタリカに派遣となった。

赴任したのは、野球の普及に力を入れるサントドミンゴ野球協会で、金子さんは小中学校で子どもたちやコーチ陣へ野球の指導を行った。また、コスタリカ代表チームの技術強化にも携わった。

コスタリカでは歴代4人目の野球隊員として歓迎されたが、「最初は言いたいことをスペイン語で伝えられない。もどかしい思いをしました」。しかし、現地の人たちとコミュニケーションの機会を増やすことで、少しずつ意思疎通が図れるようになっていった。「とにかくたくさん会話をしました。食事やイベントなどの誘いは断らずに参加しましたし、言葉が間違っていた

### 応募者への Message

大学の恩師から「成長するスピードは自分で決めなさい」という言葉をもらいました。不安や心配もあるかもしれませんが、先輩隊員に話を聞くなどすれば解消できます。勇気をもって一歩踏み出してみてください。



かねこ ひかる  
金子真輝さん

コスタリカ／野球／  
2015年度2次隊・  
東京都出身

6歳から高校まで野球を続け、大学でスポーツ心理学を学ぶ。大学4年生の秋に協力隊に応募。卒業後2015年9月からコスタリカへ派遣。帰国後、福岡ソフトバンクホークスに入団し、21年までスペイン語通訳を務める。22年に語学とスポーツマネジメントを学ぶため渡米。

ら指摘してほしいと周囲にも伝えていました」。わからない単語はメモして後で調べるなどしていくうちに、語学力がついていったという。

現地のスペイン語検定も受け、正しいスペイン語の語学力を強化し続けた成果もあってか、金子さんの活動は順調に進み、赴任から1年半後には、在外研修として、コスタリカ、エクアドル、エルサルバドル、ベリーズ4カ国の野球隊員と共に「中南米ベースボール型授業促進セミナー」を開催するまでになった。

ベースボール型授業とは、日本の小学校の必修科目で、捕る・投げる・打つ・走るなどの多様な動きを経験しながら、考える力や解決力、協調性などを養う教育手法だ。日本野球機構と国際協力機構が作成した指導用教材『みんなが輝くやさしいベースボール型授業』のスペイン語版も活用した。

こうして野球隊員としての活動の場を

広げながら自らの語学力を飛躍的に伸ばした金子さん。大学時代の夢をかなえるべく、帰国前にほとんどの日本のプロ野球球団に履歴書を送り、スペイン語通訳として自分を売り込んだ結果、福岡ソフトバンクホークスに入団が決まる。スペイン語通訳としてチーム所属の外国人選手やその家族を、公私両面からサポートすることになった。

「振り返ると、コスタリカで身につけたのは語学力だけではなく。中南米の人たちの文化や習慣、考え方を体感できたことは、選手を総合的にサポートする役割も担うプロ野球通訳の仕事に、大いに活かされていると思います」

選手からオフの時間にも電話がかかってくるほど頼りにされ、充実した日々を送っていた金子さんだったが、21年のシーズンをもって福岡ソフトバンクホークスを退団し、新たな夢に挑戦している。

「協力隊の経験を通じて、中南米やアメリカなど開発途上国の選手が活躍できるチャンスがいかに少ないかを実感しました。日本やアメリカのプロリーグでは、ドミニカやキューバなど野球が盛んな国の選手が多く活躍していますが、野球が栄えていない国では、スカウトマンと知り合う接点もなく、選手として頑張っても先がありません。才能のある選手がもっと活躍できるように道をつくり、子どもたちに夢を与えたいのです」

その夢に向かって22年1月、金子さんは渡米した。次の目標はフロリダで語学を学んだあと、大学院でスポーツマネジメントを学ぶと共に、メジャーリーグとの太いパイプをつくることだ。「何事にもポジティブで、家族を大切にコスタリカの人々。子どもたちが野球で活躍できるチャンスをつかめるよう、時間はかかりますが、必ず目標を達成したいと思っています」。

### 職種ガイド

#### 野球

野球人口の増加や技術向上、青少年の健全な育成を目指し、小中学校や地域のチームなどで野球教室を行ったり、コーチらへの指導などを行う。また野球大会の企画や運営に携わることも。金子さんの場合は、コスタリカの小中学生やコーチ陣へ向け「ベースボール型授業」を取り入れ、野球の普及活動を行った。また隣国も合わせた野球人口の増加や技術向上を目指し、在外研修「中南米ベースボール型授業促進セミナー」も開催した。



### 帰国後

2019年の日本選手権シリーズで、MVPIに選ばれたキューバ出身のジュリスベル・グラシアル選手の横で通訳をする金子さん



CASE  
2

共に汗を流したからこそ  
実感した大豆農家の課題  
協力隊活動の延長戦上に起業があった

社会人で参加した薬師川智子さんの場合 ▶ JICA海外協力隊マーケティング隊員としてケニアへ  
▶ 帰国後：ケニアで「アルファジリ・リミテッド」を起業。ボーダレス・ジャパンに加入



隊員時代

①農家グループに、大豆を未成熟な青いまま収穫して食べる「枝豆」について紹介する薬師川さん(左から4人目)  
②ケニアへのJICA海外協力隊派遣50周年を記念し副大統領を表敬訪問。薬師川さんは隊員を代表して「ミゴリを大豆の町にしたい」とスピーチ

「大豆農家が安定した収入を継続して得られる仕組みをつくる。それを世界に広め、すべての人が公平にチャンスをつかめる社会づくりに貢献したい」

ケニアで作物の買い取り保証をはじめとする貧困小規模農家へのサービスから、その卸売・小売・加工などを行う「アルファジリ・リミテッド」の代表を務める薬師川智子さん。JICA海外協力隊の活動を通じて、人生をかけて取り組むテーマを見つけた一人だ。

薬師川さんは「貧困をなくすため国連で働きたい」とアメリカに留学するが、大学卒業時には具体的な目標が定まらず帰国して農林中央金庫に就職。しかし、貧困をなくすために海外で活動したいという思いは消えず、JICA海外協力隊に応募を決めた。日本とは異なる文化に魅力を感じ

ていたアフリカのなかから、農林中央金庫での2年間の経験を生かせそうな、ケニア・ミゴリ郡の大豆農家組合で加工品の普及、市場開発を行うマーケティング職に合格した。

大豆は、主食であるメイズ（トウモロコシ）などに比べ少ない肥料でよく育ち、収穫までの期間も短いため換金作物として農家の収入向上につながるほか、土壌改善やケニアの人々の栄養改善にも役立つと栽培が促進されている。

配属先は、組合長とスタッフ5人ほどの家族経営のような小さな組合だった。組合は契約農家に対して種子や肥料を無利子ローンで提供し、大豆栽培を指導する。生産された大豆を買い取る際にその額からローンを差し引き、買い取った大豆は家畜飼料やきな粉などの加工品にして販売し

ていた。

大豆栽培の普及にも携わるなかで、薬師川さんは農家や組合にさまざまな課題があることを知る。例えば、契約農家は小規模で技術や設備がないため、干ばつや豪雨などの影響を受け生産が安定しないこと。組合がそのリスクも含めて計画的に生産を支援していく必要があるもののスタッフの能力や経験が足りないこと。農家が大豆を作っても、保存する倉庫や集荷する手段が少ないこと。組合以外に販路はなく、組合も安定した買い手を確保できていないこと。これらは途上国の農業に共通する課題だった。

薬師川さんはきな粉普及のためにケニアでおなじみの揚げパン「マンダジ」にきな粉を使ってもらうことを考え、マンダジの歩き売りをしたことがある。農家の女性に

応募者への  
Message

活動は要請内容にとられずに自分でつくる心構えで行ってほしいと思います。また、その国の人と信頼関係をつくるには時間がかかります。うまくいかないときは、自分の鍛錬だと思って謙虚に学ぶ姿勢を大切にしたいですね。



やくしがわともこ  
薬師川智子さん

ケニア/マーケティング/  
2013年度3次隊・奈良県出身

米国の大学を卒業後、農林中央金庫に入庫し長崎県内のJAバンクの業務支援などを担当。同庫退職後、2014年からJICA海外協力隊員としてミゴリ郡の大豆農家組合で大豆栽培と加工品の普及に従事。16年の任期終了直後、ケニアに戻り「アルファジリ・リミテッド」を起業。

ついて早朝からマンダジを作り、バケツに入れて街中に行き夕方までかけて売った。材料費などを差し引くと手元に残るのはわずかな金額。マンダジ売りは農家の女性にとって子どもの世話や炊事、洗濯などをこなしながらの仕事で、薬師川さんは「毎日ヘトヘトになって稼いでも、何かをする元手がたまらない」現実がくぐぜんとした。

一方で、日の出とともに起きて畑を耕し自然と共に生きる農村の人々や風景に、「人の幸せな生き方の原点に近い」と大きく心を揺さぶられた。ここで人々が安定して文化的な生活を送るためにはやはり収入向上が欠かせない。薬師川さんは「こんなに素晴らしいところにある貧困問題をなんとかしたい」と思いを募らせていった。

そんななか突然、組合長が亡くなり、小さな組合は事業を進められなくなった。「自分が継ぐしかない」。薬師川さんは、組合関係者と相談して、任期の残り10カ月で新たな会社を立ち上げ、大豆の生産から販売ま

で精力的に取り組んだ。種子の配布に始まり、農家が収穫した大豆を詰める袋や輸送用トラックの手配、買い手との交渉も行った。

そのなかで、大豆を購入する加工メーカー側には、品質のいい大豆を欲しいときに欲しい量を安定して得たいというニーズがあることを知った。日本では当たり前のようなことだが、ケニアではそれができていないのだった。

奮闘した薬師川さんだったが、なんと買い手に代金を踏み倒されるという形で任期が終了してしまう事態に陥ってしまった。「このままでは終われない」。薬師川さんは覚悟を決め、日本で貯金をかき集め、2週間後にはケニアで、大豆農家と加工メーカー双方の課題を解決する調整役となる会社「アルファジリ」を起業した。社名はスワヒリ語で「日の出」。農家の貧困をなくすという初心を忘れないよう、思いを込めた。

同社は、小規模農家の自助グループ「ア

ルフアチャマ」をつくり、作物の買い取り保証、栽培指導、貯蓄指導、農業資材のローン提供などを行う。買い取った大豆は自社倉庫に貯蔵して管理し、家畜飼料や豆腐メーカーが必要とするタイミングで卸す。現在、39グループ、600軒以上の農家が契約し、収入を向上させている。大豆以外の作物を買い取り、ナイロビの青果店で販売する事業も始めた。事業を任せられるケニア人スタッフも育ててきている。

「ケニアは外国人でも企業の規模を問わず相手にしてくれ、ビジネスを広げる可能性と醍醐味を感じられるところが魅力です。そして私は困難とされるものに燃えるタイプ。たくさんの失敗がすべて糧になっています」と薬師川さん。

2017年にはソーシャルビジネスで社会課題の解決を目指すボーダレス・ジャパンのグループ企業となり、世界を変えていく仲間を得た。ケニアからアフリカ、さらに世界へとその先を見据えている。



帰国後

農村のフィールドオフィサーや、小規模農家の自助グループ「アルファチャマ」の会員らと、収穫した大豆を囲んで

職種ガイド

マーケティング

市場の販売率活性化、市場分析、商品開発等に対してマーケティング分析を行い、助言や、販路拡大に向けたネットワーク構築、製品向上のための情報収集・提案などの支援を行う。薬師川さんの場合は、土壌改善と農家の生計向上、ケニアの人々の栄養改善を目的に大豆生産と大豆加工品の流通を行っている大豆農家組合で、大豆を使用した付加価値の高い製品開発のアイデアと販売戦略・方法を考え、市場開拓を支援した。



CASE 3

# 「コーヒー生産地が抱える問題を知りたい」 趣味が高じて参加した協力隊の2年間で きっかけとなり、技術協力の専門家に

趣味から関心を持って参加した玉田侑希さんの場合 ▶ JICA海外協力隊コミュニティ開発隊員としてルワンダへ  
▶ 帰国後：技術協力プロジェクトの専門家として再びルワンダへ

スターバックスのアルバイトをしていた玉田侑希さんが、初めてコーヒー農園を訪れたのは、留学中に旅したアフリカのタンザニア。宝石のように輝く赤い実をつけた、美しいコーヒーの木に魅せられると同時に、そこに住む人たちがどうやって生活しているのか、生産者たちが抱える問題は何か、自分も生産地に身を置いて一緒に解決したいと思った。卒業後スターバックスに入社したが、そうした思いはより強くなり、海外協力隊への応募につながった。

採用された職種は、コミュニティ開発。2016年夏に採用されてから、11月、12月、翌年1月のコミュニティ開発の技術補完研修に加えて、コーヒーに特化した技術研修を受け、3月にルワンダへ。ルワンダ東部県ルワマガナ郡カレンゲセクター（自治役場）事務所に配属された。

「ももとの要請は、コーヒーの品質と収量の改善。でもこれが難しく……。なぜならコーヒーチェリーの買取価格は政府が決めているから。どんなにいいチェリーを採っても、買取価格は変わらないので、農家は品質には大して興味がないのです」  
活動の足がかりをつくらうとしても、連携するはずの農業技官は忙しすぎて、それどころではない。「半年間はなかなかやるべきことが見つからなかった」という玉田さんに、チャンスが訪れたのは、たまたま道を歩いているときだった。

「現地の同世代の女性が話しかけてくれて、学校の農園にコーヒーの木が700本ぐ



### 隊員時代

- ① 現地の農家に向けた収穫期前のトレーニングを実施したときの様子。完熟したコーヒーチェリーを収穫することがおいしさにつながることを説明した
- ② 「ただ会うだけでなく、自分には何ができるのか」ということを考えて活動していたという玉田さん

らいあることを教えてくださいました」

早速学校に足を運び、校長先生と話したところ、学校の所有する農園では生徒が農業の授業で畑を耕したりしていることを知る。その光景を目の当たりにした玉田さんは、「子どもたちの親の多くが農家なので、親たちがどうやってコーヒーを育てているのか、育ったコーヒーがどのように飲まれているのか、子どもたちの学びにつながればと、苗作りから一緒にやることを提案し

ました。校長先生から快諾を頂き、特に環境クラブという課外活動で関わってくれた子たちが、積極的に参加してくれました」

そこから活動は、軌道に乗ってきた。「コーヒーのプロモーションのために、女性の協同組合を支援し始めました。組合の女性たちが作る、かごバッグやバスケットをマーケットに出したり、イベントのブースに出店したりしました」

いくらお金にならないとはいえ、加工場

### 応募者への Message

現地の人たちとたくさん話して、自分のできることをやるのが大切ですし、それがやりがいにつながります。そのためには語学！ 私もルワンダ語を話し、ルワンダ人として暮らすことで、現地の人との距離が縮まった気がします。



### 玉田侑希さん

ルワンダ/コミュニティ開発/  
2016年度4次隊・京都府出身

大学在学中にスターバックスでアルバイトを始め、大学卒業後、スターバックスに入社。3年後、ルワンダへ。帰国後、タイでの協力隊短期ボランティア（農業協同組合）、オンラインコーヒーツアーなどの活動を経て、2021年より技術協力プロジェクトの専門家としてルワンダに赴任。

の管理も重要と、村のコーヒー加工場の品質管理にも取り組み始めた。「チェリーの糖度の違いでどうおいしさが変わるか、どういうコーヒーの品質が良くて外国に売れるのか、加工場の人たちと話し合いながら、農家に伝えていきました」

玉田さんが自ら見つけ出した活動が実を結んだのは、カレンゲセクターで開催されたイベントでのことだった。

「EU大使がイベントを訪れたんです。そこでブースを出していた女性の協同組合や加工場の人たちが、EU大使にコーヒーを入れたり、特産品をプレゼントしたりして、すごく喜ばれました。私の関わっている活動が、すべてつながった嬉しい瞬間でしたね」

自ら動くうちに、ルワンダ全土で毎月の最終土曜日に行われるUMUGANDAという地域奉仕活動のなかで、コーヒーの木の剪定デモンストレーションや、肥料のまき方のレクチャーを行うなど、配属先と一緒に活動することも増えてきた。

「いろいろ動くうちに、改めて私の職種って“コミュニティ開発”なんだと気づきました。コーヒーの栽培にこだわってしま

したが、栽培は一つの手段であって、一番大事なのは住民の収入が上がること。コーヒーを通して、それができるなら何でもいいと思直しました」

気づきを得てからは、さらに活動の中身が濃くなっていった。

「加工場でコーヒー豆を“村別に選別する”ことを試してくれるようになりました。村別になると、その地域の特性がわかるので、問題点も可視化されます。それはファームの管理面でもマーケティング面でもすごく重要。それを始めてから、私の帰国後、ある村の豆が日本の商社に輸出されたんです」

何でもチャンス、どんな出会いも何かにつながるという気持ちでやってきた玉田さん。隊員活動の意義をこう語る。

「農園を持っている人が何をしているのか、女性の協同組合が何を作っているのか、加工場がどういう取り組みをしているのか、政府の機関が把握しきれていないことはたくさんあります。でも外から来た人間なら、全体を俯瞰して見た上で、それぞれの点をつなげることができる。そういうつながり合いから新しいものを生み出し、本来の要

請に応えることができれば、隊員活動の意義があるのかなと感じました」

帰国後もコーヒーに関わる活動を続けていたが、2021年にJICAの技術協力プロジェクトの公募に合格。今度は専門家という立場で、10月からルワンダに赴任している。

「今回は“ルワンダコーヒーバリューチェーン強化振興プロジェクト”ということで、農園の管理や品質の調査をしながら、バリューチェーン全体を俯瞰して問題点に取り組んでいくことになります。私に課せられたタスクは農協強化。農園の管理と品質の管理、両方を見ながら、農家の収入アップを目指していきます」

今後の夢は？と聞くと「今のポジションを見つけられたことで半分、夢はかなった」と言う。

「このミッションを果たした2年後に、また違う生産地の専門家になれば、もう半分の夢もかなうのかもしれない」

### 職種ガイド

### コミュニティ開発

「計画・行政」分野の一つで、地元の住民が望む生活改善や収入向上、地域活性化に貢献することを目的とした職種。フィールドワークや住民参加型のワークショップを企画・運営し、地域住民の状況やニーズを把握し、課題解決のために活動する。玉田さんの場合、ルワンダ東部県ルワマガナ郡カレンゲセクターにて、農業技官と連携し、農家や協同組合の現地調査、現地女性グループとの活動、栽培技術の提案を行いながら、地域住民の収入アップを目指した。



### 帰国後

農協に所属する女性たちに聞き取りを行っている様子。ルワンダ語で冗談を言い、ルワンダの人たちに興味を持ってもらうことが得意





# 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に行ってきました！

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2021年度は少人数・短縮スケジュールで開催されている派遣前訓練。どんな様子なのか、21年度4次隊の訓練生・23名の訓練中に取材してきました（※21年11月26日現在の情報で、今後変更になることがあります）。

私たちが案内します！



カリキュラム全般担当：  
後藤大祐さん



新型コロナウイルス  
感染症対策検討委員会：  
越智陽水さん



## 青年海外協力隊訓練所とは？

派遣前訓練を行う施設は、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所（以下駒ヶ根訓練所）と二本松青年海外協力隊訓練所があります。両施設とも、JICA海外協力隊になりたいと手を挙げて選考された方が、協力隊員になるための基礎を養う場を提供する役割があります。平常時の駒ヶ根訓練所では、約100～230人の訓練生が、寝食を共にしながら訓練に励んでいます。



## 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 小林文通所長からのメッセージ

どんな状況下であっても、同じ釜の飯を食べ、切磋琢磨して学び、各種講座などでディスカッションを重ねた同期は一生の仲間になります。コロナ禍で規制は増えましたが、リモート型訓練があることで顔と名前が覚えやすいといったメリットも生まれているようです。訓練所では訓練生たちの健康に留意しつつ、JICA海外協力隊としての資質を養えるよう、一丸となってサポートします。



駒ヶ根  
青年海外協力隊訓練所  
小林文通所長

## 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、派遣前訓練の内容はどう変わった？

### ■自宅でPCR検査を実施

自宅出発前のPCR検査で陰性が確認された訓練生のみ、駒ヶ根の訓練に参加します。

### ■ホテルでのリモート型訓練／健康観察（14日間）

駒ヶ根市内のホテルで極力接触を避けてリモート型訓練を行います。毎日検温・体調観察を記録・提出します。3食お弁当が提供され、客室内でオンライン講座を受講したり、語学学習を行ったりします。ホテルの一般宿泊客の往来がない時間帯にあたる、11時～14時は外出できます。

### ■駒ヶ根訓練所での集合型訓練（45日間）

2019年度までは、リモート型訓練や遠隔型語学研修がなく、70日間、駒ヶ根訓練所で訓練を行っていましたが、21年度は新型コロナウイルス対策のため、集合型訓練は45日間となりました。そのため訓練内容の構成を変更、一度に訓練を行う人数を半以下にし、訓練回数を年間3回から5回に増やして実施しています。地域実践型訓練や救護、異文化体験・世界情勢を学ぶゲームなどの接触型の訓練を中止し、オンデマンド型講座を新設するなどの工夫で可能な限り学べる質と量を確保しています。オンデマンド型講座を除くと語学訓練は全体の約8割。残りの2割はこれまでも実施していた健康管理や安全管理・異文化理解など、途上国の活動に必要な知識を学ぶ講座です。

### ■遠隔型語学研修

自宅に帰ってから10営業日（約5時間/日）オンライン授業を行い、語学学習のフォローアップをしています。

## 駒ヶ根訓練所の新型コロナウイルス対策は？

2020年の年度末に感染症のコンサルタントの助言を受け、新型コロナウイルス対策に取り組んでいます。21年11月現在、訓練生らが自発的に調べて提案してくれている対策も含めて、以下のような対策をしています。

- 接触を伴う授業と訓練所外の授業を休止
- 訓練生とスタッフは感染予防対策ガイドラインを順守し、基本的な予防行動を徹底する
- 訓練生は毎朝居室を出る前に検温・体調観察を記録。異常があった場合は居室に残り診療室の指示を仰ぐ
- 語学訓練を行う教室内で、酸素濃度の計測を行う。窓やドアを少し開けて換気を行う
- 食堂では距離を開けて受け渡しを行い、着席後は黙食
- 大浴場は予約制で6人までなど、共用部分の人数や利用時間の制限



- 図書館の図書や体育用品の貸し出し後は、消毒し返却後数日あけてから貸し出しをする
- 接触スポーツは中止だが、距離を取れるスポーツ（テニスなど）は可。その際、マスクを着用する
- 所内各所に感染対策のポップを表示し、注意喚起を行う
- 会食は禁止

## 施設紹介 ▶ 最大で約230名の訓練生が寝食を共にする学び舎は充実の設備



### 語学教室

言語・レベル別に分かれて学びます。取材時は1クラス1～2人で学んでいました。写真はフランス語の教室です。



### 講堂

大人数での集まりや各種講座の開催、テレビ会議のときなどに使用します。取材時は「派遣国での健康管理」の講座が行われていました。



### 食堂

多くの先輩隊員から「訓練所の食事はおいしい！」と評される食堂。派遣前訓練中に同じメニューは一度もなく、週に1度はエスニックメニューが登場します。



### 多目的ホール「森のステージ」

式典や体育施設として使用します。2階にはトレーニング器具があり、筋力トレーニングなどもできます。



### 図書資料室

言語に関する図書、国別資料、国際協力関連書籍・雑誌のほか、各国の隊員が自主的に発行する冊子などがそろっています。



### 診療室

看護師2名が常駐し、日々の健康相談のほか、派遣国で必要な予防接種も行います。



## 訓練生インタビュー

リモート型訓練を経て、駒ヶ根訓練所で訓練中の2人に感想を聞きました。

**Q** ホテルでのリモート型訓練は、つらくありませんでしたか？

**久保さん**：現職参加ということもあってギリギリまで引き継ぎなどをしていたので、リモート型訓練の2週間はむしろあってよかったです。オンラインの任意講座を受けるほか、ネットで住所変更などもできたので、落ち着きを取り戻しました。任意講座は、語学のほかにも先輩隊員の話や講座やケーススタディでグループワークをする講座があったので、同期6割くらいの顔は覚えられました。

**齋藤さん**：私も任意講座はすべて受けて、特に任地で起こり得ることをケーススタディで学ぶ講座がためになりました。例えば「学力向上の要請内容で学校の先生として赴任したとき、現場で生徒の点数を甘くするように言われたらどうするか」など。どれも正解を求められなかったのが、テーマによっては深く考え込むこともありました。人との接触を避けて健康観察を行うリモート型訓練ですが、日中3時間は外出が許されているのでホテル周辺を散歩したりして、苦には感じませんでした。

訓練所で周囲とコミュニケーションを取るのに、趣味や特技があるといいと思います。僕の場合はテニスやコーヒーが好きなので、それぞれ仲間ができました。

久保亮太さん  
モザンビーク/  
PCインストラクター

**Q** 駒ヶ根訓練所での共同生活はいかがですか？

**齋藤さん**：「訓練所の語学訓練は鬼！」とうわさで聞いていたので、入所前はドキドキしていたのですが、レベル別でクラス分けされているので、同じくらいの語学レベルの同期と学べます。先生も楽しくて自信をつけさせてくれるので、英語での発言も臆せずできています。  
**久保さん**：私の場合、ポルトガル語の受講生が私だけなので、マンツーマンです。待機中の1年間に勉強していたので、最初の2週間は余裕を感じていたのですが、だんだん難しくなってきたり必死に勉強しています。でも、同期とやっとならぶことができて嬉しかったです。

**Q** 授業時間外はどのように過ごしていますか？

**齋藤さん**：朝は6:00~6:30には起床して身支度をしながら、英語のラジオやルワンダの現地語・キニアルワンダ語のラジオを聴いています。その代わりに、昼食後の昼休みは何もせず居家でぼーっとして過ごします。午後の授業後は夕食まで復習。夕食後は宿題を優先させながら、リスニング強化のため、英語のスピーチ動画でリズム感覚をつかんだり、TOEICの問題を解いたりしています。筋力トレーニングが趣味なので、土日はトレーニング室もよく利用しています。訓練所には自転車もあるので、市内の道の駅やスーパーなどに行って食品やお土産ものを買ったりして楽しんでいます。

途上国での活動も、JICA海外協力隊なら周囲も安心するのではないのでしょうか。語学訓練や在外事務所のフォローも手厚いので、自信を持って活動できると思います。



齋藤李佳子さん  
ルワンダ/  
コミュニティ開発

**久保さん**：私の場合も6:30には起床して身支度、1日の予定や提出物を確認したりニュースをチェックしたりしています。昼休みは居室でYouTubeを見たり、昼寝をすることもあります。夜は語学訓練の課題や復習をしています。土日はテニスをしたり、ヨガインストラクターの資格を持つ訓練生が行うヨガ講座に参加したり、持参したミルでコーヒーを入れて、コーヒー好きの訓練生と距離を保ちながら談笑することもあります。



休日、齋藤さんはトレーニングエリアで筋力トレーニングをしたり、自転車で市内の道の駅へ行くことも



テニスが趣味の久保さんは、感染対策をしながら仲間とテニスで汗を流す

## 派遣前訓練中のスケジュールは？

現在、8割方語学訓練が占め、1~7限目がすべて語学訓練という日もあります。休日は土・日曜日ですが、土曜日は訓練所スタッフが実施する任意の選択制講座や、訓練生企画の自主講座などが行われています。

■平日1日のスケジュール例(取材日の場合)

- 各自起床・身支度
- 7:20~ ● 朝食
- 8:45 ● 1~3時限目 語学授業  
※授業1コマ(50分)の間に休憩(10~20分)があります。
- }
- 11:40~ ● 昼食・昼休み
- 13:00~ ● 4時限目 語学授業
- 13:50
- 14:00 ● 5~7時限目 派遣国での健康管理講座
- }
- 17:00 ● ※課外後(17:10~)に、オリエンテーションやミーティング、個人面談などが行われる日もあります。
- 18:00~ ● 夕食  
※ほとんどの訓練生が夜も課題や予習復習で語学学習に励みます。  
※交替で入浴し、翌日に備えます。
- 23:00~ ● 消灯

## 語学上達のコツは？ 語学講師インタビュー

日本の英語学習で不足している会話を中心に自信をつけてもらい、楽しく勉強したくなるような授業を行っています。個人学習では小説でもスポーツ雑誌でも構いませんから、自分の興味関心のある分野の英文を読んだり、音読したりしてみましょう。趣味の延長線上で楽しくインプットとアウトプットを行うのが続けるコツです。訓練所に入る前に自分の派遣国や職種について調べておき、必要な英単語をピックアップしておく、より学ぶ意欲が湧くと思います。



英語講師  
ブライアン先生

フランス語を学ぶ訓練生の約9割が訓練所で初めてフランス語を学びますから、前半で日常生活に必要な会話を通して発音や文法を覚えていきます。後半は活動に役立つよう、訓練生の職種に合わせた単語や会話を教えています。習得のコツは、インプットするときに日本語ではなくフランス語の文法・語順で学ぶ癖をつけること。訓練所に入る前にJICAが用意しているe-learningでフランス語の発音を聞いておくと、スムーズに語学訓練に入れると思います。



フランス語講師  
サネ先生



## 施設紹介



### 居室

1人1部屋あり、宿泊棟2棟を男女にそれぞれ分けて使用しています。室内にはベッド、机、収納棚が設置され、掃除や洗濯は各自で行います。



### 浴室

入浴は共同の大浴場へ。広い浴槽でリフレッシュ。



### 洗濯・乾燥室、物干し場

洗濯・乾燥室や物干し場が各所にあり、交替で使います。



### 談話室

談話スペースやごみの分別ボックスのほか、共有の冷蔵庫や流し台、アイロンがあります。



### 売店

毎週金曜日の昼休みに、生活用品や文具を販売する売店の営業があります。「重い洗剤などは自宅から用意せずにここで買えばよかった!」という訓練生の声も聞きました。

### その他の施設

体育分野職種の実習だけでなく、昼休みや土日に体を動かしたいときにも使用できる「体育館」「グラウンド」「テニスコート」、小規模の講座や自主講座などで使用する「小講堂」、足踏みミシンを設置する「生活技法室」、カウンセラーが訓練生のさまざまな悩みに答える「よろず相談室」や、派遣国の映像資料や先輩隊員の活動報告書といった資料を閲覧できる「メディアルーム」もあります。



# Q&Aで不安や疑問を払拭！ JICA海外協力隊ガイド

JICA海外協力隊に応募するにあたっての疑問や不安、心配事の数々に、協力隊OB・OGでもある青年海外協力隊事務局の高島笑里さん(写真左:元日系社会青年海外協力隊/パラグアイ)と脇田雄気さん(写真右:元青年海外協力隊/ベナン)がお答えします。



## Q そもそもJICA海外協力隊は何をする人たちですか？

**A** JICA海外協力隊は、「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」の総称です。独立行政法人国際協力機構(JICA)が派遣し、開発途上国で現地の人々と共に生活し、同じ目線で課題解決に貢献する活動を行っています。派遣国からの要請内容に基づいて、それに見合った技術や経験を持つ20歳～69歳までの日本国籍を持つ人を採用し、派遣しています。JICA海外協力隊は、青年海外協力隊事業として1965年に発足し、2021年12月現在までの派遣実績国の累計は98カ国です。▶派遣実績国はP2へ



隊員の多くは派遣国の人々を支援したい気持ちで出発しますが、現地の人々から学ぶこともたくさんあります。これからの日本を考えるきっかけになるかもしれません。

## Q 語学が心配です

**A** 派遣前には、自宅で受けていただく「語学事前学習」があり、オンラインで学べる語学教材(e-ラーニング)などを用意しています。また、二本松・駒ヶ根の両訓練所で行われる派遣前訓練の「語学講座」では、語学講師が現地で活動と生活をスムーズに始めるために必要な語学力を身につけるための講座を実施します。派遣国に赴任してから配属先に着任するまでの間にも、数週間～約1カ月にわたって「現地語学訓練」があります。より実践的な力を養う目的で、派遣前訓練で学んだ言語や現地語を学びます。

▶「語学講座」の詳細はP10へ

訓練所では100時間以上の語学講座を受講できます。語学漬けになることで、グンと語学力がつかはずですよ！



## Q コロナ禍、派遣状況はどうなっていますか？

**A** 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、2020年3月に全隊員が一斉帰国しましたが、21年度は少しずつ派遣が再開している国もあります。また集合型の派遣前訓練も一時中止を余儀なくされていましたが、21年度から人数規模を縮小、感染症対策を取りながら再開しています。新型コロナウイルスに限らず、テロや世界情勢の影響によっては、派遣を中断し、国外退避が行われる場合もあります。



訓練所ではコロナ対策委員会が発足し、試行錯誤しながらよりよい環境づくりを行っています。▶詳しくはP10へ

派遣現況はウェブサイトで開催しています。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/results/jocv.html>



## Q 職種の専門性があまりないので、派遣国で役に立てるのか心配です

**A** 派遣前訓練に入る前に「1.講座事前学習」や「2.派遣前課題別支援」があり、派遣前訓練中も「3.各種講座」で知識や経験を増やしたり、同じ職種の隊員と情報交換したりすることができます。また、派遣中は技術顧問・技術専門員への「4.活動支援依頼」のほか、現役のJICA海外協力隊員に向けた実践ガイド「5.クロスロード」で情報を得ることができます。



「クロスロード」はバックナンバーもウェブサイトにはアップされています。職種や活動の悩み事から料理まで、先輩隊員たちのノウハウが詰まっているので、ぜひ活用してください。

## Q 途上国で体を壊さないか、安全面も心配です。

**A** 健康、安全、生活面のサポートもあります。派遣前には、赴任にあたって必要な健康診断や、予防接種を案内・実施しています。予防接種は、自己手配で接種いただくものと、訓練所で接種いただくものがあります(詳細は合格後にご案内させていただきます)。また、派遣前訓練中に、現地での活動と生活に必要な健康と安全に関する管理意識を養うための講座を実施しています。



派遣前訓練中には、具体的な例をもとにしたケーススタディの講座もあるので、現地での生活がイメージしやすくなると思います。

派遣中は、看護師免許取得者である「在外健康管理員」が健康に関する相談、病気や医療に関する情報の提供、疾病発生時の対応などを、現地の医療機関や医師と連携しながら行ってくれる国も多くあります。在外事務所では、「安全対策の情報提供」を行っています。現地の治安状況、犯罪防止や交通安全対策に資する情報を提供するほか、通信連絡手段の確保、必要に応じて住居の防犯対策強化なども実施しています。



派遣中は在外事務所の企画調査員にも相談ができます。





## Q お金のサポートはありますか？

**A** 訓練所までの往復交通費、派遣国の赴任・帰任にかかる旅費はJICAが負担します。住居は派遣国の政府またはJICAが用意します。国や地域によっては住居に警備員がつく場合もあります。業務連絡用に携帯電話が貸与されます。訓練期間中の「国内手当(※)」や「現地生活費」(派遣国での生活費で、JICAが、派遣国の住民と同等程度の生活を営むに足る金額を、物価、為替変動などを勘案のうえ、定めています)などの支給もあります。(※)支給要件に合致する場合のみ



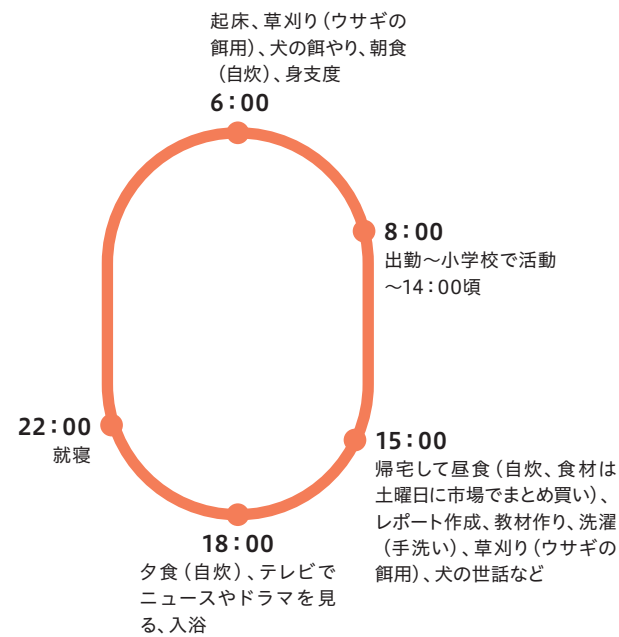
派遣中の住まいはホームステイや住居シェア、一人暮らしなど、国や地域の状況によりさまざまです。それぞれの良さがあります。

## Q 派遣されている2年間に、余暇や休日、長期休暇はありますか？

**A** あります。活動先により、勤務時間や休日・長期休暇の日数は違い、朝7時から昼過ぎまでで活動が終了する隊員もいれば、夕方くらいまで活動が続く隊員もいます。あらかじめ申請して現地のJICA事務所の承認があれば、私費で任国外旅行をすることもできます。

### ■平日のスケジュール例

▶P30譜久山ゆかりさん(ガーナの小学校教育)の場合



休日に任地が同じ隊員同士で情報交換することもあり、そこから共同で活動しようといった話になることもあります。

## Q 帰国後、就職できるのでしょうか？

**A** 青年海外協力隊事務局では、「1. 進路開拓支援」「2. キャリア支援」「3. 進学・研修支援」を通じて帰国したみなさんをサポートしています。

派遣国で活動していくうちに、将来進みたい道が変わる隊員も多くなります。そんなときは進路相談カウンセラーや青年海外協力隊相談役に相談してみてください。



### 1. 進路開拓支援

帰国隊員を対象に、研修やセミナー、勉強会などを通じて進路開拓や協力隊経験の社会還元に関するサポートを実施しています。また、「進路相談カウンセラー」や「青年海外協力隊相談役」を全国に配置し、進路相談などのカウンセリングも行っています。

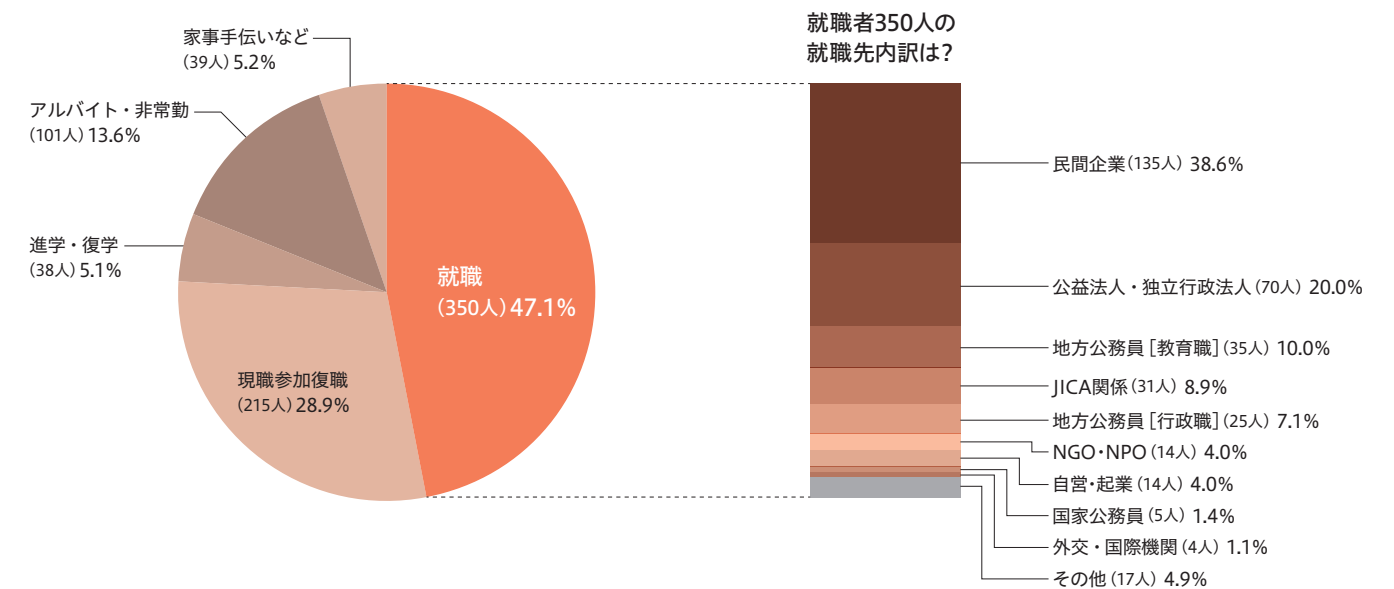
### 2. キャリア支援

帰国隊員の採用に関心がある地方自治体や企業と、協力隊経験者との交流会の実施や、多文化共生・地方創生に資する地方自治体・公的団体・NPOなどの求人をご紹介する「無料職業紹介事業」、帰国隊員のみを対象とするキャリア情報サイト「隊員専用PARTNER」による求人情報の提供などを行っています。また、教員・自治体職員の特別採用枠や、JOCV枠UNV制度(JICAが国連ボランティアの派遣にかかる費用を負担する制度)も設けています。

### 3. 進学・研修支援

大学・大学院の特別入試制度や、国際協力人材を目指す人向けの研修制度などがあります。また、進路開拓に役立つ技術の習得、免許・資格の取得につながる学習に対して必要な経費を支援する「教育訓練手当」制度や、帰国後2年以内の帰国隊員のうち、JICA海外協力隊への参加で得た知識および経験を、国内外で生かす社会還元を促進するために、国内外の大学院への進学を志望する方および進学している方を対象とした、奨学金給付事業があります。

## 2019年度帰国隊員の進路状況は？(回答743人)



※2019年4月1日～20年3月31日までに帰国した青年海外協力隊および日系社会青年海外協力隊(合計919人)に対して、青年海外協力隊事務局が行ったアンケート結果より、19年4月～21年5月までに回答があった743人の進路状況を集計。

## Q 仕事を辞めずに協力隊員になる人もいますと聞きましたが、どんな人たちでしょうか。

**A** 勤務先の承諾が得られれば、現職のまま参加することが可能です。特別な制度としては、学校の教員がその身分を保持したまま参加できる「現職教員特別参加制度」、自治体職員がその身分を保持したまま参加できる「自治体連携」、企業と連携してグローバル人材の育成に貢献するプログラム「JICA海外協力隊(民間連携)」などがあります。▶詳しくはP30,P32へ

各企業のボランティア休暇制度や、公務休暇制度などを利用して参加する方もいます。また、勤務先に対する現職参加促進費の活用による参加もあります。





# 1 フェンシング

フェンシングの普及や競技力の向上のための技術指導など



分類: 人的資源

累計派遣数: 1人

類似職種: —

先輩の活動例: コスタリカで、主に小学校でのフェンシング(フルーレ※1)の技術指導および普及活動や、病院・リハビリセンターなどの施設での車いすフェンシングの指導・普及活動に取り組む。指導した選手のなかには国内大会で結果を残し、国際大会出場の切符を手にした選手もいる。

※1 フェンシングには「フルーレ」「エペ」「サーブル」と3種目あり、種目によって攻撃が有効になる箇所が異なる。フルーレの場合は、背中を含む、胴体のみが有効面。攻撃は突きのみ。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2020年9月号)

# 2 文化財保護

文化遺産などを持つ博物館の展示改善や広報活動など



分類: 人的資源

累計派遣数: 42人

類似職種: 学芸員など

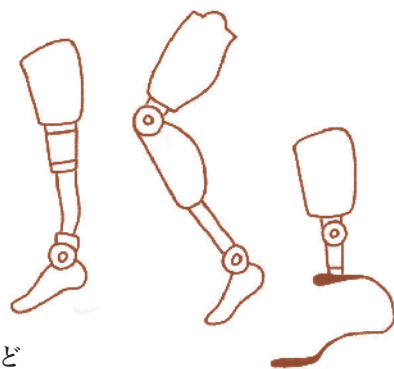
先輩の活動例: ベトナム・ホイアン市の博物館にて主に博物館業務サポートならびに展示内容の充実を目指し、館内の展示内容の調査および改善や、観光客向けのパンフレットやウェブサイト作成による広報活動などに取り組む。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2019年4月号)

# 3 福祉用具

福祉用具の製作、技術者への技術指導など



分類: 社会福祉

累計派遣数: 24人

類似職種: —

先輩の活動例: 東ティモールの国立リハビリテーションセンター義肢装具部門にて、主に義肢装具の採型、製作、適合、調整、修理および同僚への技術指導や、患者とのカウンセリングを通して、患者に合った義足や装具の提供などを行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2019年8月号)

# 4 高齢者介護

生活支援やリクリエーションの支援など



分類: 社会福祉

累計派遣数: 62人

類似職種: ソーシャルワーカーなど

先輩の活動例: 高齢化が進みつつあるタイの町役場に配属され、主に高齢者クラブを巡回し介護予防体操の考案・普及、高齢者が制作した民芸品の販売支援および看護師、保健ボランティア、高齢者の家族への介護方法の指導にあたる。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2021年6月号)

# 6 廃棄物処理

廃棄物の管理・減量化のための計画作成や助言など



分類: 公共・公益事業

累計派遣数: 65人

類似職種: 環境教育、環境行政など

先輩の活動例: ボツワナで、配属先が保有する廃棄物最終処分場の適正管理を促進するため、主に最終処分場の運営支援および改善、リサイクルの導入やそれに伴う分別回収などの新たな取り組みの提案、廃棄物管理にかかる各種レポートのフォーマットの改善などを行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2019年10月号)

# 5 気象

国や地方の気象データ収集・解析チームで、ソフト作成法の指導や、気象観測法・気象データ解析法の教育・指導を行う



分類: 公共・公益事業

累計派遣数: 31人

類似職種: —

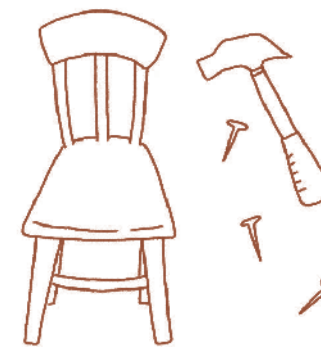
先輩の活動例: トンガ気象局(ファモツ)に配属され、主に過去の気象観測データの統計的な処理と、それによって得られた情報の整理、毎日の気象予報への参加および気象予報の新たな解説文の提案を行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2021年3月号)

# 7 木工

職業訓練校にて訓練生へ木工作業や制作指導など



分類: 鉱工業

累計派遣数: 192人

類似職種: 竹工芸、手工芸など

先輩の活動例: ドミニカ共和国で、村落部の木工組合員の工房製品の品質改善・木工技術の向上・新たな商品の企画を目指し、主に組合員の各工房で5S※2)活動の実施や、技術移転のための商品開発・技術講座の開催、観光客に向けての商品の企画・イベントでの広報活動を行う。

※2 5S…「整理」「整頓」「清掃」「しつけ」の頭文字のSを取ったもの。主に職場環境の維持改善のスローガンとして用いられる。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2019年11月号)

# 希少職種図鑑

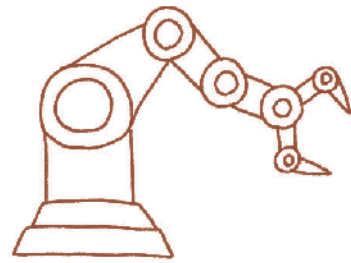
こんな要請もあります!

過去のクロスロードで連載していた「希少職種図鑑」のなかからいくつかの職種をピックアップして、希少職種を紹介します。 ※累計人数は2021年11月末現在。



## 8 電気・電子機器

専門学校などで学生への  
電気・電子の講義と実習など



分類：鉱工業

累計派遣数：845人

類似職種：電気・電子設備、電子工学など

先輩の活動例：スリランカの職業訓練大学 (UNIVOTEC) のメカトロニクス学科に配属され、主にPLC (機械制御用マイクロコンピュータ)、およびアルディーノ (C言語による制御用マイクロコンピュータ) の基礎知識、操作方法を同僚および学生へ実習指導、また学生に与えられるプロジェクトの指導監督などを行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2020年3月号)

## 10 鍼灸 マッサージ師

あん摩・マッサージ・指圧の  
実技指導や患者への対応の教育



分類：保健・医療

累計派遣数：58人

類似職種：—

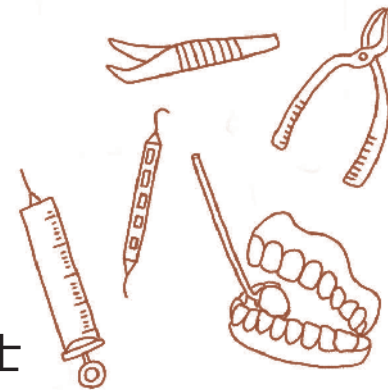
先輩の活動例：ケニアのシクリ視覚・聴覚障害者技術訓練専門学校に配属され、主に指圧の理論・実技の指導とその教科書作成、指導者の育成、配属先外での指圧の広報を行う。指導した生徒たちの一部は指圧師になり、自宅で開業したりスポーツジムのマッサージルームに就職したりしている。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2021年9月号)

## 9 歯科衛生士

歯科衛生士や治療助手に対して  
技術向上のための指導など



分類：保健・医療

累計派遣数：49人

類似職種：歯科医師など

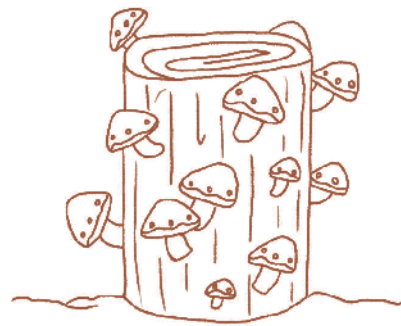
先輩の活動例：パラオ唯一の総合病院であるペラウ国立病院の歯科で、主に現地スタッフや地域住民を対象に現地歯科衛生士への知識・技術面の指導、コミュニティでのイベントで、患者を含む地域の方への啓発活動および院内のソフト・ハード面での改善点の提案・実施を行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2020年1月号)

## 11 きのこと栽培

栽培技術の移転、栽培環境の  
改善、栽培試験や研究など



分類：農林水産

累計派遣数：51人

類似職種：林業・森林保全など

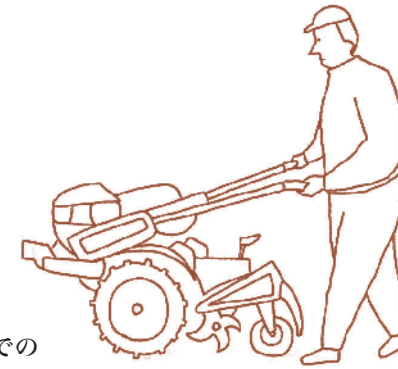
先輩の活動例：マレーシア・ボルネオ島サバ州、地域開発公社ボルネオマッシュルームにて、主に農家支援のため、現地公社の菌床工場の改善、キノコ栽培農家の巡回、講習会の実施、各種キノコの栽培試験、菌床の新規原料に関する研究などを行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2019年4月号)

## 12 農業機械

職業訓練校、農業高校などでの  
授業・実習の実施など



分類：農林水産

累計派遣数：310人

類似職種：自動車整備、工作機械など

先輩の活動例：ウガンダの国立作物資源研究所に派遣され、JICAの技術協力プロジェクト「コメ振興プロジェクト (PRiDeプロジェクト)」(※3) に所属する農業機械整備士・任地周辺の機械整備士の能力強化を目指し、主に農業機械整備および出張修理制度の導入・促進を行う。

※3 コメ振興プロジェクト…コメの生産量の増加や農家の所得向上に寄与するため、コメ関連研究機関における研究開発能力の強化や品質の向上などを支援する。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2020年11月号)

## 14 金融

大学などでの講師、  
金融機関への助言



分類：計画・行政

累計派遣数：46人

類似職種：行政サービス、マーケティングなど

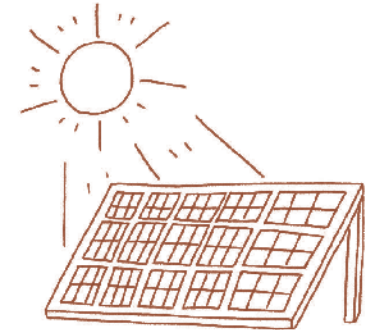
先輩の活動例：ウズベキスタン・タシケント州タシケント市の世界経済外交大学に配属され、主に国際金融市場論の授業の実施、国際マーケティングや信用リスク管理について教える補習ゼミの実施および証券市場の開発を行う政府機関へのアドバイスを行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2021年7月号)

## 13 再生可能・ 省エネルギー

再生可能エネルギーや省エネルギーに  
ついで技術の紹介など



分類：エネルギー

累計派遣数：19人

類似職種：電力など

先輩の活動例：セントビンセントおよびグレナディーン諸島短期大学において、再生可能エネルギー人材の育成を目指し、主に再生可能エネルギーの知識向上支援および座学・実技を通じた太陽光発電設備技術の教育促進に取り組む。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2020年7月号)

## 15 品質管理・ 生産性向上

企業の品質向上のための5S・  
KAIZENの指導など



分類：商業・観光

累計派遣数：208人

類似職種：経営管理など

先輩の活動例：フィジーで、5Sや改善活動を通して、生産性向上のため主に業務のムラ、ムダなどの指摘、改善案の提案、各部署への5Sトレーニングセッションの開催、週1度の清掃活動の実施およびチェックシートをもとに各部署へのモニタリングやアセスメントを行う。



◀ 詳細はこちら  
(クロスロード2020年3月号)



# 選考の流れ & 選考担当者から皆さんへ

JICA海外協力隊の募集のうち、「一般案件」は、複数の職種で応募することができ、20歳～69歳の方が応募可能（一部の要請は45歳以下の方が対象）です。自分の持っている知識や技術、経験を開発途上国の人々のために生かしてみませんか？ 選考の流れについてご紹介します。

## 募集期間

2022年春募集は、2022年5月に実施される予定です。

## 応募から選考までのスケジュール

ウェブ上の「マイページ」にて必要事項を入力して応募します。応募完了すると適性テストも実施いただくようになっています。また健康診断の受診と結果提出も必須です。これらをご提出いただいたのち、一次・二次選考を以下のとおり実施します。なお「プレントリー」（募集開始の数週間前からできる事前登録）をしていただくと、募集開始までの間に、JICA海外協力隊に関わる情報が届きます。

詳しい日程は決まり次第JICA海外協力隊ウェブサイトでお知らせします。

時期	応募・選考プロセス	内容
5-6月	応募	ウェブ入力 2022年5月下旬～2022年6月下旬 適性テスト ※応募完了者のみ対象。web受検、全員必須。 郵送（問診票・健康診断書） 2022年6月下旬
7-8月	一次選考	健康、語学力、その他書類審査を行います。 ※健康診断結果については確認や、再検査等の指示もよくあります。応募後も連絡用メールアドレスはこまめに確認を！
//	一次選考可否通知	応募者用マイページにて、可否結果を通知します。
9月	二次選考	ウェブ面接（予定） ※職種によっては面接のほかに試験や作品または動画の提出を事前に求める場合があります。
10月	二次選考可否通知	応募者用マイページにて、可否結果を通知します。 各国からの要請と照らし合わせて総合的に判断し、可否を決定します。

選考の詳細内容は23ページの表をご覧ください。

## 「一般案件」への応募

「一般案件」への応募では、「希望職種」と「希望案件」をそれぞれ最大三つまで選択できます。各「希望職種」で必ず一つ以上の「希望案件」を選択してください。複数の職種を選択された場合、一次選考可否通知の際に二次選考（面接）の対象となる職種を一つお知らせします。



## まずはプレントリーを。受験者ごとに「マイページ」を発行

募集期間に先立ち、プレントリーができます。登録者には応募に役立つ情報、協力隊員の活動事例や帰国後の進路、JICA海外協力隊に関するニュースなどを配信しています。プレントリーをされた方に発行する、個人用のウェブページ「マイページ」では、募集に関するお知らせを管理することができます。応募や選考に必要な書類の提出もマイページから行います。

## 選考の流れ

選考プロセス	主な項目・内容
一次選考	健康審査 「問診票」および「健康診断書」をもとに応募者の健康状態を審査します。 ※「問診票」および「健康診断書」の申告内容によっては追加指示（再検査など）が出る場合があります。 健康診断書・問診票 健康診断を受診し、以下の提出締切日までに問診票と共に郵送してください。 提出締切日：2022年6月下旬 ※2022年2月下旬以降に受診したものが有効となります。 診断項目はJICAが指定するすべての項目が必要です。JICAが各募集期ごとに指定する健康診断書の様式を医療機関に持参のうえ、受診してください。なお、費用についてはJICAの規定に基づき5,000円を上限とする実費額を支給します。
	語学力審査 「語学力証明書」の申告内容を基準として行います。 一部の受験者の方は、二次選考でも引き続き審査を行うことがあります。
一次選考可否通知	発表日 2022年8月中旬～下旬。応募者用マイページにて、可否結果を通知します。合格者には二次選考の詳細も通知します。
二次選考	日程 2022年9月初旬～中旬
	会場 ウェブ面接（予定） ※状況によっては、変更となる場合があります。
	人物・技術面接 JICA海外協力隊としての適性について、人物、技術の観点から面接を行います。職種によっては、面接のほかに追加の資料提出（書類、写真、動画など）を求める場合があります。 健康審査 応募時に提出された「問診票」および「健康診断書」をもとに応募者の健康状態を審査します。
二次選考可否通知	発表日 2022年10月下旬 応募者用マイページにて、可否結果を通知します。

## 【選考担当者から】JICA海外協力隊ウェブサイトを活用してください

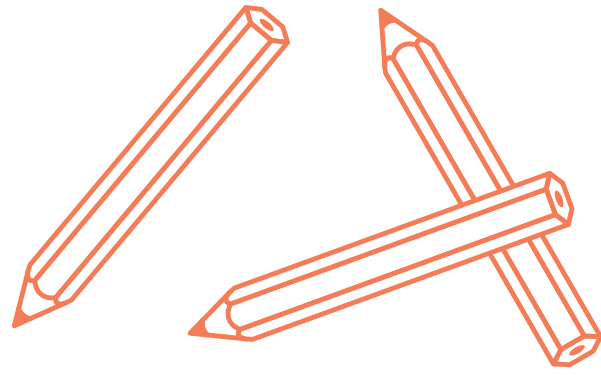
応募相談で多く受ける質問は、「職種選び」に関するものです。職種選びで迷ったときは、ご自身の経験・技術を振り返り、しっかり整理したうえで、JICA海外協力隊ウェブサイトの「シゴトを探す/職種選びのヒント」のページをチェックしてみてください。また、「現地で自分に何ができるのか、何がしたいのか」を具体的にイメージすることも大切です。応募にあたってご自身が抱く不安や疑問を解決しておくことも大切ですが、ご家族など周りの方が不安や疑問を持っている場合もあります。そうした方々の理解を得るために、JICA海外協力隊ウェブサイトの「ご家族の方へ」のページなどを参考にしてください。派遣先で力を発揮するためには「健康」であることがとても大切です。応募を決めたら、日頃から健康に留意したり、医師のアドバイスを受けて生活習慣を見直したり、必要な場合は治療するなど、さまざまな国・環境に対応できる健康状態にしておきましょう。



JICA海外協力隊に求められる力とは？

# 選考試験では ここを見る！

選考を担当しているJICA青年海外協力隊事務局  
課題業務・選考課が、ポイントを紹介します。



## 応募書類の書き方

応募にあたって記入していただく項目が多いので、少し大変だと思いますが、重要項目ばかりですのでしっかりと記入してください。

## 記入するときのポイントは？

応募に必要な各項目を漏れなく、誤りなく記入してください。希望する案件の番号を間違えて記入していませんか？ また、選択した職種(複数の方は、それぞれ分けて記入)での経験についても詳しく記載して、隊員としてどんなことができそうか、どんなことをしたいのか、を十分にアピールしてください。語学資格については証明書をPDF化したものを提出します。いざ提出の際、違う書類を添付してしまわないように注意してください。

### [ 選考サイドはここを見る！ ]

皆さんのこれまでのご経歴、ご経験として書いていただいたことや、希望する案件、希望する派遣時期などを見て、二次選考(面接)で何をお伺いするかの準備をします。上手な文章を求めているわけではありませんので、ご自身の言葉で、何をしてきたのか、何をしたいと考えているのか、教えてください。  
なお、健康診断書類の提出、適性テストの受検、どちらも必須です。健康診断では再検査の指示もあり得ますので、連絡先として申告したメールアドレスの受信確認は、数日に一度は行ってください。

## 面接(二次選考)

面接ではJICA海外協力隊としての派遣に必要な条件を備えているかどうかについて、人物面、技術面から確認します。

## 面接はどうやって行われる？

人物面接と技術面接の2回に分けて行われます。いずれも個人面接です。

### 人物面接 約15分

意欲・積極性、異文化適応力(柔軟性)、周囲の人との協調性など協力隊員としての適性を判断させていただきます。「応募の動機」「これまでの経歴や経験、それを踏まえて現地ですでできると考えること」「帰国後の進路への考え」など、さまざまな観点から質問をします。

### 技術面接 約15分

その募集期に集まった各要請案件の内容に照らして、その技術的な側面に関する対応可能性について質問します。要請されている活動内容、特にご自身で希望とされた要請案件の内容をベースに、その活動に対応するために必要な知識や経験を有しているかについてお伺いします。事前に資料(書類、写真、動画など)の提出を求める職種もあります。

### [ 選考サイドはここを見る！ ]

- ①参加したい、という強い意欲をお持ちかどうか、異文化への適応力や、周囲の人とのコミュニケーション能力など、基本的なJICA海外協力隊員としての資質があるかどうか。
- ②知識や経験、免許・資格などの技術レベルは、活動に対応しているか。
- ③活動と生活に支障がない語学力を有しているか、向上する意欲があるか。
- ④派遣国や地域での活動と生活に支障がない健康状態であるか。

これらのどれか一つに比重が置かれているということではなく、総合的に判断しています。面接は、自然体で臨んでください。質問に対しては、自分の言葉で、正直に、誠実にご説明ください。

## 応募にあたって

### 事前準備は必要？

JICA海外協力隊の活動には、コミュニケーションの基礎となる語学力や健康な心身の状態をはじめ、自発性、思考の柔軟性、協調性、臨機応変な対応力、物事を前向きに捉える力、などが求められます。そのような「基礎力」の強化や、情報収集に加え、「なぜJICA海外協力隊に参加したいのか」「JICA海外協力隊としての2年間を、自分の人生設計のなかでどのような位置づけとしたいのか」などについて、よく考えておくといでしょう。

### 所属先や家族への相談は必要？

受験前に相談していなかったために、合格後、所属先やご家族の了解が得られず辞退せざるを得ない方もおられます。事前に所属先やご家族とよくお話をされ、十分な理解を得て気持ちよく送り出していただける環境のもとで応募されることを期待しています。その熱意が、現地での活動にも生きてくるものと思います。

応募までにしておきたいことをチェック！

# To-Doリスト



JICA海外協力隊への応募に際して、やっておかなければならない基本的な事柄をまとめました。それぞれの項目の詳細はJICAのウェブサイトでご確認ください。



## 応募資格

- 年齢条件(募集期の隊次の最初の訓練開始時に20歳以上、応募期間最終日の年齢が70歳未満)をクリアしている応募期であるか、確認してください。
- 以下のいずれかに当てはまる場合は、応募前にJICA海外協力隊募集事務局に連絡してください。
  - ▶日本以外の国の国籍を持つ。
  - ▶日本以外の国の長期滞在資格を持つ。

## 職種・案件

- 応募する区分を決めてください。
  - ▶長期/短期
  - ▶一般案件/シニア案件
- 以下に従い、応募する職種/案件を決めます。
  - ▶長期・一般案件…「職種」への応募(複数職種可)
  - ▶長期・シニア案件…「案件」への応募(複数職種可)
  - ▶短期…「案件」への応募(複数職種不可)

## 家族・職場

- 海外在住の場合も、できるだけ日本国内に住むご家族らの住所・電話番号を、家族連絡先に記入してください。
- 「職場への連絡不可」にチェックすれば、こちらから許可なく職場に連絡することはありませんので、現職については必ずきちんと記入してください。
- 現職参加を希望する場合は、ご自身で職場に相談し、派遣に向けて利用できる休職制度や研修制度などを確認し、所属先ともよく相談して計画してください。条件に合致する場合は、所属先に対し「現職参加促進費」をお支払いすることができます。

## 健康・体力

- 日本とは異なる環境で生活することを前提に、健康状態について主治医に相談しておいてください。
- 応募時に提出する指定様式の健康診断書の項目に沿って、指定期間内に健康診断を受け、郵送で提出してください。体力維持のための運動や食事内容に注意するなど、派遣前から日ごろの健康管理には気を付けてください。

合格後

- 派遣に必要な予防接種を受けていただく場合があります。選考試験の合格後、ご案内に従って受けていただきます。

## 語学力

- 希望する案件の選考指定言語(英語/フランス語/スペイン語など)の検定試験を受験しておいてください。英語の場合「英検3級もしくはTOEIC®で330点以上のスコア」が必要条件です。
- 検定試験の結果を証明するもの(語学力証明書)を入手してください。

合格後

- 活動に必要な言語は長期派遣者向け訓練で習得する機会があります(語学訓練免除者研修受講者を除く)。
- 訓練に入る前も語学の勉強は続けましょう。活動言語の独学が難しくければ英語を。

## 技術力

- 希望する案件で求められている技術・免許を習得・取得しておいてください。
- 希望する案件で求められている経験(実務経験・教員経験・指導経験・競技経験・その他)を積んでおいてください。
- 応募書類には「経験」の内容を詳しく書いてください。

合格後

- 取得見込みの資格は、取得され次第、証明書を提出していただきます。

## お金

合格後

- 現地での生活にかかる費用に充てていただくため、国ごとに定めた金額の海外手当を支給します。住居は、派遣国の政府かJICAが準備します。
- 派遣国などの条件により、支給される手当などの内容が異なります。
- 派遣中の処遇については、派遣前訓練でのオリエンテーションなどで詳しくご案内します。

## その他

合格後

- パスポート(公用旅券)は、原則として選考試験の合格後にJICAが発給手続きを行います。ただし、90日以内の短期派遣の場合は、ご自身のパスポート(一般旅券)での渡航となる場合があります。
- 「年金」「健康保険」「住民票」「税金」の手続きについては、選考試験の合格後にお住まいの市区町村の役場や年金事務所にお問い合わせください。

## 情報

- JICA海外協力隊事業や、JICAの事業全般について、ウェブサイトなどで情報を入手し、整理しておいてください。

合格後

- それぞれの派遣先の情報(治安、交通、医療、生活事情などに関する情報)については、派遣前訓練や着任時のオリエンテーションなどで最新の情報をご提供します。



# 健康審査に関する注意事項

選考で重要な「健康審査」について、注意点をまとめました。詳細はJICA海外協力隊ウェブサイト内の右記のページをご参照ください。



JICA海外協力隊員が派遣される国々は、生活環境（気候、ライフラインなど）や文化的背景、医療事情（タイムリーに医療機関を受診できるかどうかなど）が、日本と大きく異なる場合がほとんどです。

そのため、選考でも健康審査を慎重に行ったうえで、派遣の可否ならびに派遣国を判断しています。以下の事項に注意しつつ、日頃からの健康づくりを心がけてください。

## 選考時健康審査、入所前（訓練前）・派遣前健康診断

### 【選考時】

応募時に提出された「問診票」と「健康診断書」をもとに応募者の健康状態を審査します。再検査や、診断書の取り付けが必要となることもあります。着実にご対応ください。

### 【合格後、入所前（訓練前）・派遣前】

合格後に新たな傷病が発生した方には逐次ご連絡をお願いしています。また隊次ごとの訓練が始まる際にはその前に、必要な健康診断を受けていただきます（対象者は同隊次の全員）。新たな傷病の状況や、健康診断の結果により、訓練への参加、派遣が取り消しとなる場合があります。なお派遣国によっては所定の追加検査が必要となる場合があります。

## 「JICA海外協力隊健康審査委託医療機関」のご案内

品川イーストクリニックは「JICA 海外協力隊健康審査委託医療機関」です。選考時にこちらの医療機関で健康診断を受けられる場合、結果の郵送は不要です。  
<https://izavel.com/vaccine/jica/>



## 選考時の健康診断書提出に関する注意事項

### ① コロナ禍

コロナ禍の影響により、健康診断の受診予約や、診断結果の入手に時間を要することがあるため、早めの受診予約を推奨します。

### ② 診断書の様式

健康診断書の様式は、各募集期ごとに設定されるものを必ず使用してください。異なる募集期のものや、医療機関独自の書式などは受け付けられず無効となります。

### ③ 検査漏れ

医療機関から受け取った診断書が、封をされていた場合も必ずご自身で開封し、検査項目の漏れがないかなどを確認して、漏れがあれば速やかにその医療機関にご相談ください。未記入の項目があると審査対象外となってしまいます。

### ④ 血液型

ご提出いただく健康診断書には血液型の記載が必要です。受診前に医療機関にもご説明ください。

### ⑤ 診断書提出や再検査についての連絡

健康診断を受領し、確認を進めるうえで、主治医からの診断書の取付け・提出や、再検査を受診してその結果を送付いただく必要があるケースがかなりあります。連絡先としてご自身で指定されたメールアドレスは、応募後もこまめにチェックしてください。

＜健康に自信あり！という方も確認ください＞

**BMI**：極度の肥満だけでなく、極度の「やせ」も、抵抗力が弱まって病気にかかりやすかったり、かかった場合の回復が遅れたりという可能性があり、決して見過ごせないものです。

**LDL**：悪玉と呼ばれるコレステロールの値です。高すぎる場合は動脈硬化を引き起こすおそれがあります。

※BMI基準範囲=18.5～24.9 kg/m<sup>2</sup> (公益社団法人 日本人間ドック学会ホームページより)

※LDL基準範囲=60～119 mg/dL (公益社団法人 日本人間ドック学会ホームページより)



# どんな生活が待っている？

# 任地メモ

活動の取材にご協力いただいた  
6人の先輩隊員に、任地での  
生活についてもお聞きしました。

任地での  
活動の様子は下記へ

金子真輝さん  
コスタリカ/野球/  
2015年度2次隊

P4-5



薬師川智子さん  
ケニア/マーケティング/  
2013年度3次隊

P6-7



玉田侑希さん  
ルワンダ/コミュニティ開発/  
2016年度4次隊

P8-9



譜久山ゆかりさん  
ガーナ/小学校教育/  
2015年度1次隊

P30-31



渡邊雄一郎さん  
マレーシア/環境教育/  
2016年度4次隊

P32-33



北原英一さん  
シニア/フィジー/空港/  
2014年度2次隊

P34-35



## 任地の自慢

**渡邊さん(マレーシア)**:任地のボルネオ島・コタキナバルには、世界自然遺産に登録された公園があるなど、島全体で豊かな大自然が残っていて、ほかの隊員からもうらやましがられました。休日海や山に遊びに行くことが多くありました。

**玉田さん(ルワンダ)**:コーヒー農園は、白い花が咲く時はジャスミンのような香りが漂い、コーヒーの実がなる季節は赤い宝石を広げたように美しくなります。農園をランニングするのも気持ち良かったです。

**北原さん(フィジー)**:天真爛漫<sup>らんまん</sup>で、人懐っこい子どもたちの笑顔。みんな親切で、ある意味おせっかい。欲がなく、日本人が忘れかけている、人情味あふれる人々。加えて、南太平洋に浮かぶどこまでも美しい自然あふれる常夏の島国。海、山、夕日、南十字星のとりこでした。



①コタキナバルの沖合5つの島から成る海洋公園のマムティック島(マレーシア)  
②頭にコーヒーの実を載せて運ぶ女性と、③コーヒーの赤い実(ルワンダ)



## 住まい

**玉田さん(ルワンダ)**:コーヒー農園にある戸建てに住んでいました。ビール工場を経営する大家さんの家だったので、4部屋もあり掃除が大変なほどでした。家庭菜園があったので、自分が食べるために野菜を植えていました。冷蔵庫もガスコンロもあって生活は恵まれていたと思います。

**北原さん(フィジー)**:セキュリティがJICA基準では万全ではないとの指摘を受けて改修工事を行うことにはなりましたが、フィジー

にしては安全で豪華な家具つきのアパートに住まわせてもらいました。

**薬師川さん(ケニア)**:ミゴリ中心地にある、安全なエリアのアパートでした。警備員もいて安心だったので、任期終了後にケニアで起業した際も、しばらくそこに住んでいたほどです。

①コーヒー農園にあった玉田さんの住まいと、②収穫し加工したパーチメントコーヒー(コーヒー生豆になる前の種皮がついたコーヒー豆)を天日乾燥する農家の人々(ルワンダ)  
③北原さんは家具つきアパートで快適に過ごした(フィジー)





## 食事

④ マーケットで売られていた大量のバナナ(ルワンダ)



① レストランで提供される現地ごはん(ルワンダ)  
② 北原さんが日々の食材を買って帰ったマーケット(フィジー)  
③ ヤムイモを蒸した小学校の給食(ガーナ)



**玉田さん(ルワンダ)**:タンザニア米や野菜、牛肉や豚肉はマーケットで手に入るの、自炊は蒸し野菜のほか、コンソメや出汁を入れてスープを作ったりしていました。1週間分の野菜が1ドルくらい、外食をしたとしても、1食350円くらいで食べられました。郷土料理では、バナナとヤギ肉、トマトとピーナツを煮込んだ鍋料理「イギサフリヤ」がおいしかったです。

**譜久山さん(ガーナ)**:断水の多い地域で、水

(500mlのプラスチックパック入りで約6~9円)は買っていました。自炊でも水を節約して、スープ缶と野菜を煮込んだり、牛乳を加えたりしていました。ストリートフードは、牛乳がある季節だけ登場する揚げたチーズのような「ワガシ」や、大豆をすって揚げたさつま揚げのような「コウセイ」が売っていました。ガーナ料理ではほかに「フフ」というバナナとヤムイモをすりつぶして餅のようにしたものや、肉が入った辛いスープも印象に残っています。

**北原さん(フィジー)**:日々の食材は、学校への道すがらにあったマーケットで調達し、土日はナンディ市の中心部にある品揃え豊富なマーケットへ買い出しをして、ほとんど自炊でした。ただアパート近くには、日本料理店、インド料理店、フィジー料理店、ファストフードもありました。学校の同僚の先生宅に呼ばれたり、同地区の協力隊員らとの食事会などもよくありました。

## 休日

**玉田さん(ルワンダ)**:休日は掃除や洗濯で半日使い、コーヒー農園をランニングしたり、同僚や近所さんのところに遊びに行ったり。遠出して登山や国立公園への訪問などもしました。平日の夜などは、コーヒー生産地にはスペイン語圏も多いので、将来に備えてスカイプでスペイン語の勉強もしていました。  
**薬師川さん(ケニア)**:平日の活動と変わらず、大豆畑を回ったり、近所のお母さんのところに行ってマンダジ(揚げパン)を作ったりしていました。マンダジを作るために朝7時の水くみから一緒に作業をして、販売もさせてもらったのですが、一日売り歩いて200個がなんとか売り切れるくらい。くたくたで家に帰ったとたん倒れるように寝たりして。休日も含めていろいろなことを一緒に体験させてもらうことで、任地の人たちが「お金がたまらない」と言っている意味を実感しました。

**北原さん(フィジー)**:土日の休みにはマーケットに出かけたり、JICA仲間、学校の同

僚たちとゴルフに出かけたりしていました。アパートにじっとしていることは少なかったです。夏休みなど長期で休める時には、フィジーの島々の至る所に出かけました。



① コーヒーを入れる玉田さん。コーヒーは輸出するものなので、コーヒーを飲まない農家も多い(ルワンダ) ② 近所に住む女性にマンダジ作りを教わる薬師川さん(ケニア) ③ イベントでダンスを披露する人々(ルワンダ) ④ 各地で活動する協力隊員が集まった大ゴルフ大会。このゴルフコースでは、ゴルフの世界大会も開催されている(フィジー)

## 異文化を感じたこと



野球指導をした子どもたちと金子さん(コスタリカ)



通学に使うオート三輪車(モトキン)。乗れるだけ乗って帰宅する(ガーナ)

**金子さん(コスタリカ)**:14~15歳で将来ナショナルチームに入れるくらいの有力選手が、野球の練習に来ないことがありました。心配になって電話をしたら、「今日はお母さんの誕生日を祝わないといけないから休む」と一言。家族を大切にしているラテンの感覚を知りました。

**譜久山さん(ガーナ)**:日本で国家行事や学校行事を行う場合、入念に下見や下調べをしたりします。一方、ガーナはぶっつけ本番か、

打ち合わせがあっても前日くらい。例えば6時集合の遠足で、バスの到着が8時を過ぎたとしても、内容は減らしません。結果学校に帰ってきたのが21時だったときにも、誰一人怒ることなく丸く収まってしまうので、すごいと思いました。ガーナ教育省からTeacher's Award を頂いたときも、表彰式の場所は都市しか知らされなかったのですが、たまたま同じホテルに参加者がいて車に同乗させていただいたので、無事に表彰式会場に行くこ

とことができました。  
**渡邊さん(マレーシア)**:マレーシアは多民族多宗教国家で、職場にはムスリムとクリスチャンの同僚がいました。ムスリムとクリスチャンの挨拶の違いや食事の違いが共存していることにマレーシアの文化の多様性を感じました。ただそのなかでもサバ州はほかの厳格な州に比べると宗教的な違いには比較的寛容なほうだと思いました。

## 思い出

**渡邊さん(マレーシア)**:植林や環境教育のイベントを定期的に開催するにあたり、苦楽を共にした20代前半の現地スタッフらとの交流です。若くても環境分野をしっかり学んだ専門家ばかりなので、敬意をもって接するようにしていました。マレー語、英語共に私は少し苦労しましたが、みんなでアイデアを出し合えたことが一番記憶に残っています。

**譜久山さん(ガーナ)**:学期最終日はOur Day(生徒の日)と呼ばれ、どの学校でも持ち寄り食べ物を交換したりして楽しい時間を過ごします。あるマンモス校で手作りのキャラメルポップコーンを差し入れたところ、最初は誰も手をつけなかったものの、恐る恐る手

をつけた一人が「意外といける」と言ったとたん、容器を破壊する勢いで皆が手を出してあっという間になくなりました。学期のお別れの挨拶の前に「トワラ」という伝統的な女の子の尻相撲ダンスをする学校もあったりと、みんな元気いっぱいでした。

**北原さん(フィジー)**:子どもたちを集めて行ったSOLFA(ドレミの意味)CLUBと名づけたリコーダークラブです。任期の最後に、教会組織の催しとして皆さんの前で演奏する機会を頂きました。またフィジーの昔ながらの生活を営むナバラ村という村での生活のとりこになり、友人などと何度も訪れたことも思い出に残っています。



① 現地の著名な版画家とコラボした、マンガロブ保全を訴えるTシャツを着た渡邊さん(左から3人目)と、同僚の皆さん(マレーシア) ② 子どもの数が多く、1クラスが100人以上という学校もあった(ガーナ) ③ 日本から寄付を募る「世界の笑顔のために」プログラムで、日本から送られたリコーダーをもらって嬉しそうなお子さんたち(フィジー)

## 治安と安全対策

**金子さん(コスタリカ)**:中南米のなかでは比較的安全な国だと思います。もちろん、在外事務所のボランティア調整員からのアドバイス「夜に出歩かない」「スマホを見ながら歩かない」「後ろのポケットに財布を入れない」などは気をつけていましたが、身の危険を感じることはありませんでした。

**玉田さん(ルワンダ)**:現地語であるルワンダ語で話し、スマホや値段の高いものは出さないように心がけていました。ルワンダ人と同じということを見せながらも、どんなに現地の方と仲良くなっても、よそ者であるということは意識して過ごしました。

**譜久山さん(ガーナ)**:ガーナはクリスチャンが約半数を占めているため、多くの人が日曜日は教会に行き、店が閉まっています。そのため「日曜日に歩かぬ人は危ない人が多いから気をつけて」と注意されていたので、日曜日の外出は避けて家で過ごすことが多かったです。実際、日曜日に路上で強盗に遭った隊員もいました。現地の友人が防犯のために小型犬を貸してくれたので飼っていました。外出するときには、パスポートは首から下げて肌側に収めていました。



CASE  
4

## 現職教員特別参加制度での参加に 挑戦し続け、39歳で合格 視点が変わり、授業の説得力が増した

現職教員特別参加制度で参加した譜久山ゆかりさんの場合

▶ JICA海外協力隊小学校教育隊員としてガーナへ ▶ 帰国後：復職

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍した『外国にルーツを持つ』日本代表選手を、班ごとに挙げてみましょう」。この問いかけから、沖縄県立知念高等学校の地歴公開授業は始まった。

名前が出そうと、次のパリ五輪に向け、チームJAPANの代表選手を選ぶ場合の基準について班ごとに話し合った。「父が日本人」「日本生まれ」「在留資格がある」「日本語が話せる」「正確なシュートが決められる」「日本で納税している」「日本を愛している」など、24項目ある条件のなかからふさわしいと思うものを選び出したあと、これをチームJAPANではなく、「日本国民としての条件」に置き換えたときに条件が変わるかを考察。最後に、外国人労働者の力が必要になる日本で、どのように日本人と外国人が同じ「国民」として多文化共生を実現できるかを考えてまとめさせた。

“あたらしい「日本国民」としての条件”を考察するこの公開授業を行ったのは、同校の地理歴史科教諭で元JICA海外協力隊員の譜久山ゆかりさんだ。現職教員特別参加制度を利用して譜久山さんがガーナに派遣されたのは、2015年のこと。

配属先のノーザン州タマレ市にある教育事務所からは、教育主事としてできるだけ多くの小中学校に出向き、教員の理数科指導を向上させることが求められていた。1～3校を3カ月ごとに巡回していくため、各校3カ月間で信頼関係を築いて結果を出す必要があった。事前の授業見学で多く



隊員時代

①現地教員への研修会。折り紙を使った図形の学習法を考察して教えた。折り紙は紙を正方形にカットして作ったもの ②九九ソングの暗唱テスト中 ③覚えられた児童は☆をつけて張り出した ④九九の暗唱ができると、譜久山さん手作りのメダルがプレゼントされた。もらった児童たちは誇らしげ

の生徒が掛け算を習得していないことを知った譜久山さんは、九九の暗記を活動の一番の目標に設定した。「現地のテレビCMで使われていた『きら星』の曲にのせて九九を暗唱してもらうことにしました。暗唱できた生徒の名前を張り出すようにしたところ、『家で練習してきたから歌わせて』という生徒も出てきて、嬉しかったです。九九すべてを暗唱できた生徒には、折り紙で作ったメダルを

プレゼントした。九九の暗唱のほかにも、折り紙で行う図形の授業、手製の実験器具を使った理科の授業など、工夫を凝らした授業は生徒たちを魅了した。「最初は現地語なまりの英語がわからなかったり、環境の変化についていけずに戸惑うことばかりでした。でも、私の不安をよそに、教員たちは私の働き方を見て何かを感じ、受け入れてくれるようになりました。皆

応募者への  
Message

現地では日本での専門だけではなく、なんでも求められることがあるので、日本でいろいろなことに挑戦しておくに対応しやすいと思います。英語の九九ソングは、ガーナで私自身も練習を重ねました。



ふくやま  
譜久山ゆかりさん

ガーナ／小学校教育／  
2015年度1次隊・沖縄県出身

高校生時代に手にしたJICA海外協力隊員の本を読み、隊員を志す。大学卒業後応募し続け、39歳で教員の身分を維持しながら参加できる「現職教員特別参加制度」を利用して合格。2015年7月よりガーナの小学校を巡回し、理数科目の授業の質向上を目指す。帰国後、復職。

より早く出勤して採点したり、担当教員が遅れているときに授業をつないだりしたので、日本から来たボランティアがなぜここまでするのかと驚かれました。ガーナでは乳幼児を連れて授業を行う女性教員も少なくないので、女性教員が赤ちゃんにミルクを飲ませている間に譜久山さんが代理を務めるといったこともあった。

最終的に教員からも頼りにされる存在になって活動を終えた譜久山さんが、協力隊を志したきっかけは、高校時代にさかのぼる。「進路に迷っていたとき、図書館で『ガーナに賭けた青春』(女子パウロ会)を偶然見つけたんです。村おこしのためにパイナップルファームを造った協力隊員の本で、いつか私も隊員になって途上国で活動したいと思いました。教職を選んだのも、協力隊終了後に生徒たちに体験を伝えることで、社会還元できると考えたからだという。

ところが、順調に教員採用試験に合格し

高校教諭となったものの、隊員になるチャンスはなかなか巡ってこなかった。「現職教員特別参加制度を利用して参加するには、教頭や校長に承認してもらい、また、県の教育委員会に選んでもらう——こうしたハードルを超えなければ応募できないので、何度か挑戦したものかありませんでした。当時はこの制度で応募できる年齢の上限が40歳までだったので、39歳のときに諦め半分、記念受験くらいの気持ちで応募したんです(※)」。

それまでにJICA沖縄が教職員向けに実施する海外研修に参加し、ポリビアの沖縄移民が開拓したコロニアオキナワを訪ねたりした経験があったことから、「中南米の国を希望してスペイン語を勉強していた」という譜久山さんが、決まった派遣先は英語圏のガーナだった。「最終面接の感触で、小学校教育でザンビアへ派遣になるかと思っていました。でも最終的にガー

ナに決まったのは、高校時代からの運命だったのかもしれない。

協力隊への参加で譜久山さんの視野は広がり、地理・歴史を教える際の視点が変わり、授業に説得力が増した。将来的には、日本の教育への還元だけでなく、勉強をしても自国で働き口が少ないガーナの人たちと、日本の企業をつなげるパイプ役のような存在にもなりたいと考えている。

現職教員特別参加制度とは？

公立、国立大学付属、公立大学付属、私立および学校設置会社が設置する学校の20～45歳の教員が、身分を保持したままJICA海外協力隊へ参加できる制度。4月1日から参加開始後は、日本での事前学習と派遣前訓練、任地での協力隊活動、帰国と、2年後の4月1日から年度の開始と同時に職務復帰ができるよう、ちょうど2年間で参加できるスケジュールが組まれている。対象期間中は、現職参加促進費または現職教員派遣委託費が都道府県などの所属先へ支給される。



帰国後

沖縄県立知念高等学校の公開授業。日本の多文化共生をテーマに、日本国民としての基準とは何かを考えさせた

職種ガイド

小学校教育

現地の先生と一緒に、算数、理科、音楽、体育、図工、情報（ICT教育）などの授業を行ったり、授業手法や教材の改善に取り組んだりすることで、児童がよりよい教育を受けられる環境づくりを行う。譜久山さんの場合は、ガーナ教育省の受け入れでノーザン州のタマレ市教育事務所に配属され、市内の小中学校を巡回した。現地教員の理科と算数の授業に対し、教材の紹介、授業の改善の提案をし、指導力アップを目指すことが求められた。

※当時は応募時の年齢が40歳までだったが、現在は45歳までに引き上げられている



CASE  
5

## 民間連携で参加し、IT分野の専門性を生かした環境教育活動を展開 活動先の若いスタッフとも刺激し合えた

JICA海外協力隊(民間連携)で参加した渡邊雄一郎さんの場合

▶ JICA海外協力隊環境教育隊員としてマレーシアへ ▶ 帰国後：復職

JICA海外協力隊には民間連携という制度があり、渡邊雄一郎さんはその制度を導入した企業の社内公募に39歳のときに手を挙げた。

配属先は、マレーシアのボルネオ島のクタキナバル・ウェットランド・センター(以下、KKWC)。東京ドーム約5.5個分という広大な湿地に園内見学のための2kmのボードウォークが整備された、環境保全を啓発する施設だ。州都クタキナバル市内からアクセスしやすく、国内外の観光客、地元の小中高生が環境を学びに来るほか、日本からも学生や企業が研修で訪れる。

NGOによる運営で、職員はマネージャーを含め5名と慢性的に資金と人員が不足している。この湿地は2016年末にラムサール条約の登録湿地に認定されたものの知名度が低く、積極的に広報を行って来園者を増やすことが課題になっている。

渡邊さんは、30代初めにIT業界に転職し、システムの設計やプログラミングなどひとつひとつの工程を経験し、かつ金融からゲームまで幅広い業界の案件に携わってきた。在籍企業(株式会社Freewill)が環境問題や社会課題の解決に取り組んでいるため、ITを自然環境保全に生かすチャレンジをしたいとKKWCでの活動を選んだ。派遣前に環境教育の技術補完研修を受けた渡邊さんだが、着任してみると、同僚たちは20代前半と若いながらも大学で環境を学んだ専門家ばかりで、環境教育の内容改善に容易には踏み込めないと感じた。



隊員時代

来園者に湿地やマングローブについて紹介する渡邊さん



QRコードを読み取るとそこに生息している鳥の音が聞けるカード。イラストや音声はフリー素材を活用した



施設の受付でQRコードを読み取ると園内マップをダウンロードできるアプリ。英・日・中の3カ国語対応

「まずは自分にできることから確実にやろう」と、渡邊さんはウェブサイト整備を中心に行った。ウェブサイトのアクセス解析をしてサイト(英語・日本語)を見やすくアクセスしやすいものにリニューアルしたほか、来園者数が増えていた中国人向けに中国語版も制作した。

新ウェブサイトは、同湿地のラムサール条約登録をサバ州で公式報告するイベン

トで公開され、理事は招いた関係者に対し「日本人が作ってくれた」と誇らしげに紹介してくれた。渡邊さんが配属先の信頼を得られたことを感じた瞬間だった。

その後、渡邊さんは活動計画を「環境教育プログラムの改善」、「クタキナバル・ウェットランドの宣伝」、「新たな収入源の確立」、「施設内マングローブのクリーンアップ」の4分野にして進めた。

応募者への  
Message

人間が変わるには、時間配分、住む場所、つき合う人の3つを変えることだという言葉があります。協力隊はそのうちの2つを用意してくれていて、時間については自分次第。私は参加してとてもよかったと思っています。



わたなべゆういちろう  
渡邊雄一郎さん

マレーシア/環境教育/  
2016年度4次隊・鹿児島県出身

大学卒業後に世界50カ国以上を放浪。その後、中華人民共和国・上海で邦人向け情報誌のデザイン・編集に携わる。帰国後、IT業界に転職。ITエンジニアとして金融からゲーム業界まで多数の案件に従事。2017年3月から19年3月まで青年海外協力隊として活動後、復職。

「環境教育プログラムの改善」では、来園者の環境教育が一度限りで終わらないよう、既存の施設内の素材を活用したEラーニングサイトを構築した。友人にドローンで空撮してもらった湿地の映像資料も制作した。その映像は施設内での使用にとどまらず、それまで文書資料中心に行われていた資金調達にも貢献した。

そして、渡邊さんは来園者に対するプログラムを行うなかで気づいた課題にもITを活用して対応していく。受付で来園者に配付していた紙のガイドマップをスマホでQRコードを読み込めばPDFでダウンロードできるようにしたほか、園内散策中に鳥の鳴き声や特徴などをスマホで見聞きできる動植物カードも作成した。カードは時間帯によっては野鳥に遭遇できない来園者に少しでも楽しんでもらおうという配慮だ。

これらの制作物は、渡邊さんの任期終了後の継続性を考え、身近なソフトやフリー

素材を使って、同僚に協力してもらいながら作った。「同僚たちは皆若くてスマホを使いこなしている世代です。こちらからの新しい発想や提案を柔軟に受け止めて、いいと思ったことはどんどん真似して覚えていきました」。

ほかにも、地元の著名なアーティストとコラボして作ったTシャツの販売、コンポスト、ヤシ殻を使った炭の商品化など活動は多岐にわたった。「失敗を恐れずやりたいことをやらせてもらった2年間でした」と渡邊さんは振り返る。

渡邊さんは復職後、Freewill社の社会課題解決のためのクラウドファンディングのプラットフォーム「SPIN」の企画などに携わったのち、現在は金融分野のベンチャー企業の案件に携わっている。

「IT業界は技術革新が早く、目的に向かってモチベーション高く仕事をするのが求められます。マレーシアでは知り合いもいないなかで課題を探り、数多くある解決

方法から自分でできるものを選択し、実行しました。協力隊でゼロからイチをつくる経験ができたことは大きな自信になりましたし、今、仕事で新たな提案をする際の原動力になっています」

2年間の活動で、ボルネオの豊かな自然に感動し、それをITを活用して発信していく面白さを知った渡邊さん。環境協力隊員向けの技術補完研修で自身の経験を伝えているほか、隊員が活動中に参考にできる資料を提供するサイト「Cyclefor」もほかのOVと共同運営し、後輩たちの活動を支えている。

JICA 海外協力隊(民間連携)とは?

JICAが企業と連携し、社員を青年海外協力隊、シニア海外協力隊などとして派遣し、グローバル人材の育成に貢献するプログラム。各企業のニーズに合わせ、受け入れ国や要請内容、職種、派遣期間などをカスタマイズできる。

職種ガイド

環境教育

身の回りや地球全体の環境に関する教育や取り組みを行う環境教育隊員は、「ゴミ問題」「自然保全」「環境理解」をテーマに、任地の課題改善に向けての活動を展開する。渡邊さんの場合は、サバ州の湿地の環境保全とマングローブの重要性を啓発するクタキナバル・ウェットランド・センターで、来園者の増加に向けてのウェブサイトの整備や、来園者に対する環境教育プログラムの作成、マングローブの植林活動などを実施した。



帰国後

帰国後に協力隊OB・OGと共に共同運営を始めた「Cyclefor」は、現役隊員へ向けて活動の参考となる資料を提供するサイトだ。



CASE  
6

自分の持っている“一芸”を、シニア隊員として  
フィジーに還元。伝えたことが  
現地の人々の心に残るなら、これ以上の喜びはない

退職後参加した北原英一さんの場合 ▶ JICAシニア海外協力隊空港隊員としてフィジーへ  
▶ 帰国後：ボランティア活動や趣味に打ち込む



隊員時代

- ①日本の東日本航空専門学校(宮城県岩沼市)から多くの整備工具や器材の供与を受けた。品質の優れた日本のツールに、先生も学生も大喜び
- ②長年の経験と知識をフィジーに還元すべく任地に赴いた。学校の先生や学生、地元の人々とのすべての交流が心に残っている
- ③課外授業として現地の子どもたちを集めてリコーダークラブを結成。集大成として、首都スバでの発表会で演奏した

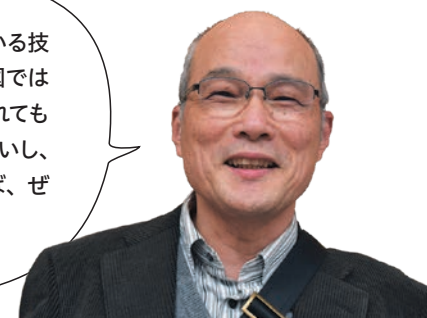
「要請は、フィジー国立大学理工学部航空工学科の先生方への最新技術伝習とレベルアップ。つまりフィジーの教育レベルを、最新の世界レベルに近づけることでした」  
そう話す北原英一さんが、シニア海外協力隊としてフィジーに派遣されたのは2014年のこと。航空整備士として日本航空などに40年勤務したキャリアを買われてのことだった。応募のきっかけは、いくつかの偶然が重なった。  
「一つは娘が2013年度2次隊でパラオに派遣されていたことです。当時、娘のところに様子見に行ってみると、環境は過酷なのに、娘は生き生きと楽しそう。そうしたら娘が『お父さんも応募してみたら』って。

当時勤めていた会社も60歳で一つの区切りを迎えるタイミング。試しに探してみたら“空港”という要請が見つかりました。しかも、前任者は同じ会社のOBで、なんだそういう人が行っていたのかって考えたら、もう応募するしかないと思いました」  
しかし赴任してすぐに、冒頭のフィジーの要請に対して「そんな段階じゃない」という印象を抱いた。「正直、これで大丈夫なのかなというレベルでした。要請は指導者のレベルアップでしたが、それ以前に現場でどのような指導が行われ、学生たちはどう受け止めているのか、現場の様子を知ったうえで、学生の将来に役立つ教育をつくりだすことが大切だろうと考えまし

た。そこで直接、自分で授業を受け持たせてほしいと頼み、1年目は1年生、2年目は3年生の授業を担当させてもらいました」。  
北原さんが真っ先に生徒たちに伝えたのは日本独特の“カイゼン”という考え方。「例えば、工具室らしきものはあるものの、工具はそのへんに放りっぱなし。でも飛行機というのは、工具を一つでも飛行機に置き忘れてしまうと、大変なことになります。探し出すまで出発させることができません。それぐらい工具の管理は重要だと伝えたくて、ボードにツールの絵を描いて、使ったら必ずそこに戻すなど管理の仕組みをつくらせ徹底的に教え込みました」

応募者への  
Message

自分では大したことはないと思っている技術やスキル、経験でも、開発途上国ではそれが価値のある財産として受け入れてもらえます。それを伝えることは楽しいし、やりがいもあるので、興味があれば、ぜひ行ってください！



きたはらえいいち  
北原英一さん

フィジー/空港/  
2014年度2次隊・福岡県出身

整備士として日本航空に37年間、その後、フジドリームエアラインズに勤務。60歳でフィジーへ。帰国後、三菱重工国産ジェット旅客機「MRJ」(のちに「スペースジェット」に改名)の開発などに参画。東京オリンピック・パラリンピックではボランティアとして参加。

とはいえ、最初から理想どおりにいったわけではなかった。島特有ののんびりとした時間の流れ、いわゆる“フィジータイム”に阻まれたからだ。  
「授業のスタートに生徒全員が集まったこともなければ、気乗りがしなければ途中で出て行ってしまいう学生もいました。でも授業を進めて、一人ひとりと話していくうちに、信頼関係が生まれてくるんです。気持ちを通じ合えば、あいつの言うことなら知っておいたほうがいいなと感じてくれて、授業も一生懸命聞いてくれる。ただ授業より実習のほうが積極的に取り組んでいたの、実習での指導を取り入れる工夫もしました。結果的に学生の姿勢は、ずいぶん変わりましたね」

北原さんと学生たちのやりとりをばたき見ていた先生たちの意識も、だんだん変化していった。「先生が私の部屋にやって来て『これに関する資料はないか』『これを説明してほしい』など、質問や相談を受

けることが多くなっていきました」。  
現場で感じて考えて、求められることを実践し、ももとの要請内容を振り返りながら活動していくうちに、あと半年、あと3カ月と任期満了が迫ってきた。「任期は2年で、基本的に延長はありません。だから即断即決でやっていくしかないですよ。私が派遣された意義は現地の人たちが決めることですが、自分の伝えたことが学生の心に残って、将来仕事をするなかで生かされれば、私としてはこれ以上嬉しいことはないです」  
帰国後は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にボランティアとして参加した。  
「特に思い出深かったのは、パラリンピックの選手村で、アゼルバイジャンの選手団の専属アシスタントを務めたこと。専任スタッフというのは、いわばよろず相談屋。選手村への入居から退去まで、居室、食事など生活のお世話から、競技場へ同伴し選

手の車いすを押したり、何から何までケアしましたが、そういったことに対応できたのは、やはりフィジーでの2年間の経験が大きかったですね。国も考え方も違う人に対して、こうあるべきだと主張しない。こちらが折れる、慣れるというのは、フィジーでの生活が教えてくれました」  
70歳まであと3年。今後、コロナが収束し、また“空港”の要請があれば応募してみたい、と北原さんは目を輝かせる。  
「シニア案件は一芸が必要です。私にとって“空港”は一芸でもあり、人生そのもの。それが生かせるなら、またどこかでチャレンジしてみたいですね」

シニア海外協力隊とは？

一定以上の経験・技能などが必要な要請に基づいて活動する。派遣期間は1~2年で、対象年齢は20~69歳。中南米の日系社会で活動を行う「日系社会シニア海外協力隊」もある。

職種ガイド

空港

生活・サービスに関わる「公共・公益事業」分野の一つ。空港は、日本での実務経験や専門資格、幅広い知識が求められる。北原さんへの要請は、ナンディ国際空港に隣接する国立大学理工学部航空工学科で、学生の航空整備士資格取得を目標に、航空整備科目を同僚スタッフと共に指導すること。授業や実習を通して、日常作業安全指導や作業環境改善意識の向上、訓練機材の整備を支援した。

帰国後

現在は市民オーケストラで音楽さんまの日々。2021年11月に開催された和光市市制施行50周年記念第九演奏会に実行委員、演奏者として関わった





## JICA 海外協力隊に関するお問い合わせ先

### ■応募・選考に関するお問い合わせ

お問い合わせ内容	窓口名称	TEL	e-mail
応募	JICA海外協力隊募集事務局	TEL: 045 (410) 8922	contact@jocv.info
応募者用マイページ・選考	JICA海外協力隊選考事務局	TEL: 03 (6632) 9465	info@jica-saiyo.com
上記以外	ボランティア相談窓口 (協力隊相談ライン)	TEL: 03 (5226) 9817	jocv_sodan@jica.go.jp

JICA海外協力隊  
ウェブサイト▶▶



### ■JICA国内拠点連絡先

名称	所轄地域	TEL・FAX	e-mail	所在地
JICA 北海道(札幌)	北海道(道央・道北・道南)	TEL: 011 (866) 8421 FAX: 011 (866) 8382	hkictp@jica.go.jp	〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
JICA 北海道(帯広)	北海道(道東)	TEL: 0155 (35) 1210 FAX: 0155 (35) 1250	jicaobic@jica.go.jp	〒080-2470 北海道帯広市西20条南6-1-2
JICA 東北	青森県・岩手県・宮城県・ 秋田県・山形県・福島県	TEL: 022 (223) 4772 FAX: 022 (227) 3090	jicathic-jv@jica.go.jp	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル20階
JICA 筑波	茨城県・栃木県	TEL: 029 (838) 1117 FAX: 029 (838) 1776	jicatbic@jica.go.jp	〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
JICA 東京	群馬県・埼玉県・千葉県・ 東京都・新潟県・長野県	TEL: 03 (3485) 7461 FAX: 03 (3485) 7025	tictpp1@jica.go.jp	〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5
JICA 横浜	神奈川県・山梨県	TEL: 045 (663) 3253 FAX: 045 (663) 3265	yictp@jica.go.jp	〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1
JICA 北陸	富山県・石川県・福井県	TEL: 076 (233) 5931 FAX: 076 (233) 5959	jicahric@jica.go.jp	〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファーレ オフィス棟4階
JICA 中部	静岡県・岐阜県・愛知県・ 三重県	TEL: 052 (533) 0220 FAX: 052 (564) 3751	cbictp@jica.go.jp	〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-7
JICA 関西	滋賀県・京都府・大阪府・ 兵庫県・奈良県・和歌山県	TEL: 078 (261) 0352 FAX: 078 (261) 0357	jicaksic-jocv@jica.go.jp	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
JICA 中国	鳥取県・島根県・岡山県・ 広島県・山口県	TEL: 082 (421) 6305 FAX: 082 (420) 8082	jicacic-jocv@jica.go.jp	〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内
JICA 四国	徳島県・香川県・愛媛県・ 高知県	TEL: 087 (821) 8825 FAX: 087 (822) 8870	jicaskic@jica.go.jp	〒760-0028 香川県高松市鍛冶屋町3番地 香川三友ビル1階
JICA 九州	福岡県・佐賀県・長崎県・ 熊本県・大分県・宮崎県・ 鹿児島県	TEL: 093 (671) 6311 FAX: 093 (671) 0979	jicakic@jica.go.jp	〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
JICA 沖縄	沖縄県	TEL: 098 (876) 6000 FAX: 098 (876) 6014	oictp@jica.go.jp	〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1

### ■青年海外協力隊訓練所

名称	TEL・FAX	e-mail	所在地
二本松青年海外協力隊訓練所	TEL: 0243 (24) 3200 FAX: 0243 (24) 3214	jicanjv-bk@jica.go.jp	〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所	TEL: 0265 (82) 6151 FAX: 0265 (82) 5336	jicakjv-jocv@jica.go.jp	〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15

クロスロード

発行日 2022年2月

編集・発行: 独立行政法人国際協力機構  
青年海外協力隊事務局  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル

制作協力: 一般社団法人協力隊を育てる会「クロスロード」編集室  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-7 昇龍館ビル2階  
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン: (株)AND  
印刷・製本: 弘報印刷(株) 校正: 佐藤智也



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

